

中国の大学における図書館情報学教育の
現状と課題

—武漢大学信息管理学院を事例として—

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2019 年 3 月

陶穎

目次

1. はじめに.....	1
1.1 研究の背景と目的.....	1
1.2 先行研究.....	2
1.3 研究方法.....	3
1.4 論文の構成.....	3
2. 中国の大学における教養教育と専門教育の変遷.....	6
2.1 中国の大学における教養教育政策及び専門教育政策の変遷.....	6
2.1.1 建国前、高等教育成立期（1898年～1949年）.....	6
2.1.2 建国初期、旧ソ連モデルの導入期（1949年～1966年）.....	6
2.1.3 文化大革命期（1966年～1976年）.....	7
2.1.4 改革開放期（1976年～1990年）.....	7
2.1.5 発展期（1990年～現在）.....	8
2.2 中国の大学における専門教育としての図書館情報学教育の変遷.....	11
2.2.1 建国前、高等教育成立期（1898年～1949年）.....	11
2.2.2 建国初期、旧ソ連モデルの導入期（1949年～1966年）.....	12
2.2.3 文化大革命期（1966年～1976年）.....	13
2.2.4 改革開放期（1976年～1989年）.....	14
2.2.5 発展期（1990年～現在）.....	14
2.3 まとめ.....	15
3. 武漢大学および同大学信息管理学院図書館学専攻の概略と略史.....	24
3.1 武漢大学の概要.....	24
3.2 武漢大学信息管理学院の略史.....	24
3.3 武漢大学信息管理学院の現在.....	26
3.4 まとめ.....	29
4. 武漢大学信息管理学院におけるカリキュラム改革前の図書館情報学教育.....	32
4.1 大学教育における学問領域の体系化.....	32
4.2 図書館学専攻の人材育成目標.....	33
4.3 図書館学専攻のカリキュラム.....	34
4.4 まとめ.....	37
5. 武漢大学信息管理学院図書館学専攻における2013年度のカリキュラム改革.....	40
5.1 調査方法.....	40
5.2 改革の背景.....	41
5.3 大学教育における学問領域の変化.....	42

5.4	武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2013 年度のカリキュラム改革	44
5.5	まとめ.....	51
6.	武漢大学信息管理学院図書館学専攻における 2018 年度のカリキュラム改革	53
6.1	改革の背景	53
6.2	武漢大学信息管理学院のカリキュラム改革	55
6.2.1	武漢大学信息管理学院のカリキュラム体系	55
6.2.2	図書館学専攻のカリキュラム	58
6.3	まとめ.....	63
7.	考察	66
7.1	武漢大学信息管理学院における教養教育の改革について	66
7.2	武漢大学信息管理学院における専門教育の改革について	72
7.3	まとめ.....	76
第 8 章	おわりに.....	79
8.1	本研究のまとめ	79
8.2	課題	84
	謝辞.....	86
	参考文献	87
	付録.....	93

1. はじめに

本章では、本研究の研究背景と目的、先行研究、研究方法及び論文の構成について述べる。

1.1 研究の背景と目的

中国で最初の図書館学の教育機関である武昌文華大学図書科が設立されてから約 100 年が経過した¹。中華人民共和国が成立された 1949 年、中国には武昌文華大学図書科の後身である武昌文華図書館学専科学校と北京大学図書館学専修科のみであった²。以降、中国の大学では 1966 年から 1976 年まで文化大革命期に大きく停滞したものの、1978 年以降、着実に図書館学部を設置する大学が増加し、その規模も大きくなっている³。公共図書館の急速な発展、情報通信技術の大規模な導入とともに、中国の図書館情報学教育は目覚ましく発展してきた⁴。

近年、デジタル時代において、多くの大学における図書館学/図書館情報学専攻では、データベース、ネットワーク、デジタルなどの情報通信技術に関わる科目や、経済管理、マーケティング、電子ビジネスなどの経済やマネジメントに関わる科目を新設し、社会の発展や動向に対応しようとしている⁵。

中国の大学における図書館情報学教育は時代の要請に応じて発展してきた。しかしその一方で、図書館情報学の学部教育レベルにおいて、いくつかの問題点が指摘されている。例えば、図書館学/図書館情報学専攻の学生定員の減少である⁶。李は、「一部の大学が図書館情報学専攻、特に図書館学専攻の学生定員を減らしたり、1 年おきに学生を募集したりしており、全体的に図書館情報学専攻の学生募集規模が減少⁷」していると述べている。また、図書館情報学専攻を志向する学生も減少している⁸。そのため、各大学は、このような問題を解決すべく、図書館情報学の学部教育を立て直そうとしている。

本研究では、このような課題を抱える中国の大学における学部教育レベルの図書館情報学教育に焦点をあて、その現状と課題を明らかにすることを目的とする。

そこでまず、中国の経済政策と高等教育政策を概観し、中国の図書館の発展及び中国の大学における図書館学/図書館情報学教育の発展に関して説明する。また、事例調査を通じて、図書館学/図書館情報学教育の改革を明らかにするとともに考察を行う。

具体的な事例として、武漢大学信息管理学院を取り上げる。信息管理学院は、2001 年度に図書館情報学院から改組された。中国における図書館情報学教育は、武漢大学信息管理学院をモデルとして推進されているため⁹、本研究の事例として取り上げることとする。

武漢大学は、211 工程および 985 工程に指定された重点大学の 1 つであり、湖北省武漢市に位置する国立大学である。1893 年に張之洞により創設された自強学堂を前身とする、中

国で最も歴史がある大学の1つである。1928年に現在の武漢大学に改名された¹⁰。

武漢大学信息管理学院の学部教育は、2013年度および2018年度にカリキュラム改革が行われたため、本研究では、この2回の改革に焦点をあて、学部における図書館情報学教育の現状と課題を考察する。

1.2 先行研究

神崎明坤は、「中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として」¹¹において、1898年、中国で初の大学が設立されてから現在まで、特に1990年以降、中国の高等教育の変容とその成果に関して論じている。中国の7大学のカリキュラムを対象として調査を行い、「通識教育」¹²（教養教育）に焦点を当て、その変遷と課題を明らかにした。

中国科学技術協会による「中国図書館学学科史」¹³では、中国における図書館学/図書館情報学教育の歴史的な変遷を述べている。この文献によると、1949年10月の中華人民共和国の成立以降、図書館は新しい発展段階を迎え、1978年以降、改革開放政策の指導の下、目覚ましい成果を挙げてきたという。また、潘は中国における図書館情報学教育の改革について説明し、分析を加えた。

丁健は、「近代中国における図書館人材育成機関の設立」¹⁴において、武漢大学信息管理学院の前身である武昌文華図書館学専科学校の1889年から1949年までの歴史を概観するとともに、中国図書館情報学教育の発展に与えた要因を明らかにした。中国では、1910年代からウッド女史を中心に行われた市民が利用することができる図書館建設運動が進められた¹⁵。また、ウッド女史は、図書館人材不足の問題に対応するために1920年、アメリカのニューヨーク州立図書館学校をモデルとする図書館情報学教育機関として、武昌文華大学図書科を設立した。丁は、この図書館学専科学校の設置が、図書館の発展に大きな貢献をしたことを指摘した¹⁶。

陳伝夫、呉鋼、盛釗、丁寧、張法、梁桂熟（訳）は、「新中国図書館情報学教育の歩みと展望」¹⁷において、中国創立60年の図書館学/図書館情報学教育の発展の歩みを総括し、その課題について考察を行った。この論考では、武漢大学信息管理学院の1949年以降の歴史についても触れられている。この文献は、武漢大学における図書館学/図書館情報学教育の変遷を明らかにした。しかし、2008年以降の武漢大学の図書館情報学教育の状況について考察した論考は、管見の限りない。

これらの先行研究をふまえ、本研究では、2001年に改組された武漢大学信息管理学院における図書館学教育を事例研究として取り上げ、そのカリキュラム改革を分析することによって、中国の大学における図書館学教育の現状と課題を考察する。なお本研究では、信息管理学院における2013年度および2018年度の学部のカリキュラムに着目する。

1.3 研究方法

本研究では、文献調査、事例研究とインタビュー調査を行う。

文献調査では、まず、中国の大学における図書館情報学教育の歴史に関する論文、雑誌記事、図書を調査し、中国の大学における図書館情報学教育の歴史、武漢大学信息管理学院の歴史、大学図書館の歴史と発展を明らかにする。

次に、武漢大学信息管理学院を対象として、図書館情報学教育に関連する「図書館情報学教育の人材育成方案の改革」に関する文書などの一次資料を調査することによって、武漢大学の図書館情報学教育の現状および、2013年度および2018年度のカリキュラム改革の実態を明らかにする。

また、インタビュー調査は、武漢大学信息管理学院の図書館情報学教育改革を担当した教授、図書館副館長、武漢大学信息管理学院の学生を対象として実施する。インタビュー調査では、武漢大学信息管理学院で(1)2013年度および2018年度に実施された図書館情報学教育に関する改革の要因および概要、(2)武漢大学信息管理学院における図書館情報学教育の現状と課題、(3)中国の大学における図書館情報学教育の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

なおインタビュー調査は、筑波大学図書館情報メディア研究科倫理調査委員会の審査を経て実施した。

1.4 論文の構成

本研究の構成は以下の通りである。

第1章「はじめに」では、本研究の背景と目的、先行研究及び論文の構成、研究方法、について述べる。

第2章では、図書館と密接な関係がある社会の進歩、政策や経済の変革、教育の発展について論述する。現代中国の図書館政策も、大学の図書館学/図書館情報学のカリキュラム改訂についても、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想、中国共産党と中国政府の政策の下で実施されている。中国の経済の政策と高等教育の政策を概観しながら、中国の図書館の発展及び中国の大学における図書館学/図書館情報学教育の発展に関して論述する。また、武漢大学における信息管理学院の歴史についても触れる。

第3章では、文献調査により、武漢大学の概要、武漢大学信息管理学院の略史および武漢大学信息管理学院の現状について説明する。

第4章では、文献調査により、武漢大学信息管理学院における2013年度カリキュラム改革前の図書館学専攻の学部教育について論じる。

第5章では、武漢大学信息管理学院の図書館情報学教育の改革を担当した教授、武漢大学図書館副館長を対象とするカリキュラムの改革に関するインタビュー調査と文献調査を通

じて、武漢大学信息管理學院における 2013 年度の図書館情報学教育の改革の背景、目的、改革の内容を明らかにする。

第 6 章では、文献調査とインタビュー調査を通じて、武漢大学信息管理學院における 2018 年度のカリキュラムの改革の内容を明らかにする。

第 7 章では、武漢大学現地で文献調査とインタビュー調査の結果から、武漢大学信息管理學院におけるカリキュラム改革について考察する。また、調査の結果に基づいて武漢大学における図書館情報学教育の実課題を分析する。

第 8 章では、本研究のまとめを行うとともに、中国における図書館情報学教育の現状と課題についてまとめる。

¹ 武漢大学信息管理學院編. 求实奮進共譜新篇 : 从文華図専到武漢大学信息管理學院 (1920～2010) . 第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 1.

² 陳伝夫, 吳鋼, 盛釗, 丁寧, 張法 ; 梁桂熟 (訳) . 新中国図書館情報学教育の歩みと展望. 図書館界. 2012, vol. 63, no. 6, p. 452-462. (新中国図書館の 60 年 5 シリーズ) . , p. 452.

³ 肖東発. “中国図書館学教育” . 図書館学刊. 1988, p. 7-12.

⁴ 吳建中ほか. 21 世紀の図書館 : 世界のなかの中国の図書館. 京都大学図書館情報学研究会. 2007, p. 67.

⁵ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 13.

⁶ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 13.

⁷ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 13.

⁸ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 13.

⁹ 武漢大学信息管理學院編. 求实奮進共譜新篇-从文華図専到武漢大学信息管理學院 (1920～2010) . 第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 58.

¹⁰ 武漢大学信息管理學院. 「大学概観」<http://www.whu.edu.cn/index.htm> (参照: 2019. 1. 10) .

¹¹ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察 : 教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 181-190.

¹² 中国では「教養教育」に相当する中呼び方は「文化素質教育」、「通識教育」である。「通識教育」はアメリカの general education から直訳された。「文化素質教育」は、90年代に提示された新しい人材育成モデルである。「文化素質教育」の教育対象と目的は「通識教育」と一緒である。すなわち、全学生を対象とする教育である。

出典：楊瞳．中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム：3 大学の事例比較．大学経営政策研究．2013, no. 3, p. 120.

¹³ 中国図書館学会．中国図書館学学科史．中国科学技術協会編．中国科学技術出版社，2014, 304p.，（中国科学史研究報告系列）．

¹⁴ 丁健．近代中国における図書館人材養成機関の設立：武昌文華図書館学専科学校を中心に．東京大学大学院教育学研究科紀要．2012. vol. 52, p. 267-273.

¹⁵ 巖文郁．“韋棣華女士與庚子賠款”．伝記文学．1971, vol. 18, no. 5, p. 13.

¹⁶ 丁健．近代中国における図書館人材養成機関の設立：武昌文華図書館学専科学校を中心に．東京大学大学院教育学研究科紀要．2012. vol. 52, p. 272.

¹⁷ 陳伝夫, 吳鋼, 盛釗, 丁寧, 張法；梁桂熟（訳）．新中国図書館情報学教育の歩みと展望．図書館界．2012, vol. 63, no. 6, p. 452-462.（新中国図書館の60年5シリーズ）．

2. 中国の大学における教養教育と専門教育の変遷

本章では、中国の大学教育について、教養教育および専門教育の変遷を概観する。中国の図書館の発展及び中国の大学における図書館学/図書館情報学教育の発展について論述し、その特徴と問題点を示す。

2.1 中国の大学における教養教育政策及び専門教育政策の変遷

本節では、中国の大学教育について、教養教育および専門教育の変遷に着目して述べる。中国の大学における「通識教育（教養教育）」は、政治・経済の変化によって改革されてきた。中国で初の大学が設立された 1898 年から現在までの 98 年間は、下記のような 5 つの時期に分けることができる。

2.1.1 建国前、高等教育成立期（1898 年～1949 年）

1898 年に中国で初の大学、北京大学が設立された。

この時期、中国の高等教育に大きな影響を及ぼしたのは、ヨーロッパ、アメリカの先進国の高等教育である¹。当時、北京大学の学長であった蔡元培は、海外先進国の高等教育モデル（主にアメリカ）を模倣して教養教育の理念を導入した²。その後、中華人民共和国成立まで、中国では教養教育が重視された³。例えば、1928 年の第一回全国教育会議では、「大学規程」第 8 条によって、「党議」「国語」「体育」「軍事訓練」「第 1、第 2 外国語」を全校の共通必修科目と定めている。蔡元培は、大学の教育目標は「文理融合、全ての知識を身に付けること」という教育理念を提示した。また、清華大学の学長を務めていた梅琦は、大学教育は「スペシャリスト」より「ゼネラリスト」を育成するべきという教育目標を指摘した⁴。

2.1.2 建国初期、旧ソ連モデルの導入期（1949 年～1966 年）

1949 年、中華人民共和国の成立後、高等教育制度は計画経済体制と政治目標の変動とともに変化した⁵。中央政府は高等教育にソ連モデルを導入し、工業立国を軸とした中央集権の社会主義政治体制と計画経済体系に合わせて⁶、高等教育制度を改革した。

1950 年に開催された第一次全国高等教育会議で、高等教育に関する目標を「高度の文化レベルを備え、現代の科学技術を身につけ、人民のために奉仕する国家建設に必要な高級建設人材、専門人材を育成すること」と掲げられた⁷。中国政府は 1952 年 8 月には「全面的ソ連化」が推進された⁸。中央政府は全国で大学と学部・学科の調整を行う「院系調整」を実施した⁹。大規模な調整が進められ、専門人材を育成する教育と開設する科目については、国の経済、政治、国防建設の実際的な需要に基づくべきであるされた¹⁰。これにより、多様

な学科及び専攻を揃える総合大学が減少し、9割以上の大学は単科大学や工学の技術専門学校になった¹¹。

この時期の大学教育は、以前の教養教育重視から専門教育重視へと変化したといえる。また、この時期、教養教育科目としては、「マルクス・レーニン主義原理」「政治経済学」「毛沢東思想」に関するもののみが設置されており、それ以外の教養教育科目はすべて廃止された¹²。

学問分野については基本的に、専門職・職業分野によって制定された。一方で、その専攻及び科目設置は、学生の就職先の具体的な職種に対応して細分化された¹³。

また、中国国家教育部は1952年、「全国大学統一入学試験」を導入し、同年に6万6000人が大学に入学した¹⁴。

2.1.3 文化大革命期（1966年～1976年）

1966年から1976年の「文化大革命」によって、中国の経済や教育は、全体的に停滞した。

1966年の中国共産党第8期中央委員会第11回全体大会で「中共中央の無産階級文化大革命に関する決定」を配布し、文化大革命が全国的に展開され、高等教育にも波及することとなった¹⁵。「十年の混乱」と呼ばれる¹⁶文化大革命期に、高等教育の制度、内容はすべて変更され、中国の高等教育は大きな打撃を受けた。

革命の障壁であると考えられた知識人や資産階級は迫害され、反革命分子として多くの教授から批判され、教学設備、図書資料などが損失を受けた¹⁷。

この時期、政府は教育に「生産労働と融合し、社会主義の思想を強く持つ労働者を育成する」ことを求めた。さらに、無産階級のための政治的奉仕を徹底的に実行することを求めた¹⁸。

この時期設置された教養科目は「マルクス資本論」、「レーニン主義」、「毛沢東思想」、「共産党の歴史」、「社会主義政治経済学」に限定された¹⁹。「全国大学統一入学試験」²⁰も、約10年間にわたって中断された。その一方で、推薦入学制度が始まった。推薦を受ける学生は「保送生」と呼ばれた。高校が推薦書類を大学に送り、大学が審査を行い、推薦入学に合格した学生は大学に入学直接に入学することができた²¹。

2.1.4 改革開放期（1976年～1990年）

1976年、10年間に及ぶ文化大革命が終了し、大学高等教育が復活した。1977年8月の中国共産党第11次全国代表大会において、「4つの現代化」という新たな目標が示された。農業、工業、国防、科学技術の4つである。この新しい目標を実現するため、多くの専門人材を育成することが必要となった²²。

この新しい目標を実現するため、多くの専門人材を育成することが重要となり、高等教育

の改革が要求された。1977年、中国政府は「高等学校入学試験に関する制度」を公表し、「全国大学統一入学試験」後を再開した²³。中国では、大学に入学するために、「全国統一大学入学試験」（通称「高考」）を受け、点数が志望大学の合格最低点に達する必要がある。「全国統一大学入学試験」は毎年6月7日から9日の3日間、実施は年に一回、全国で実施される。希望する大学に進学できるか否かは、この試験の結果にかかっている²⁴。

「全国統一大学入学試験」は日本の制度と異なり、各大学による選抜試験は行われない²⁵。「全国統一大学入学試験」を受けた後、受験生は自己採点結果に基づいて、志望大学及び志望専攻を決めて願書を提出する。各大学は、「全国統一大学入学試験」の結果をもとに合否判定をくだす²⁶。

1978年中国共産党第11期中央委員会第3回全体大会では、「経済建設中心」及び「改革開放」という治国方針が発動し²⁷、建国から続いていた計画経済から市場経済を目指す改革が進められた。高等教育も正常な軌道に乗り始めた²⁸。

この時期、大学の教養教育では必修科目の比重を減らして、選択科目を増やした。一方で、旧ソ連モデルの影響によって専門教育を重視した。専門教育は細分化され、専門性や実用性の高い人材育成に重点が置かれていた²⁹。

2.1.5 発展期（1990年～現在）

1990年代以降、中国の高等教育における、教養教育は「欧米モデル+中国の伝統」へ移行した³⁰。中国にでは1990年代以降、教養教育が重視されるようになった。2000年代から個別のトップ層の大学、例えば、北京大学、清華大学、復旦大学などから実践し始めた。北京大学は2007年から「アメリカ型+中国の伝統」による文理融合の理念を開始した³¹。中山大学は現在「米国古典名著モデル」の影響を受けて、教養教育改革を行った³²。1992年、鄧小平は南巡講話で、経済体制について中央集権計画経済から社会主義市場経済への移行が必要であるということ指摘した。社会主義市場経済体制への移行により、教育体制の政策変化が求められた³³。この政策により、大学卒業者は国家による職業配分から、個人による職業決定という制度変更がなされた³⁴。

経済発展と科学技術発展に基づいて、知識の量が増加し、変化の速度も早まった。グローバル化の進展に対応して、以前の専門知識のみを有する人材だけではなく、広い視野を有する人材が必要となっている。政策上、高等教育の目的は社会の発展に合わせて、社会の発展に合わせて個人の発展を重視する方向へ動いている³⁵各大学の人材育成目標も専門人材の育成から多様な知識・能力を有する人材へ育成する方向へ変化した³⁶。その結果、大学教育においてはカリキュラムの改革・見直しが実施されてきた³⁷。

その結果、1990年代以降、中国政府から高等教育に関する様々な改革方針が発表されることとなった。

1993年2月、中国国務院が発表した「中国教育改革と発展に関する綱要」では、計画経

済から社会主義市場経済への移行に伴い、社会の発展、特に科学技術の発展に合わせて、21世紀初には一部の大学の教育の質と研究水準を、世界のレベル一流大学に到達させることを目標とすることが示された。また、これによって、国家教育委員会は1993年7月に「高等教育機関および重点学科の整備に関する若干の意見」を公布し、21世紀に向けて100校前後の大学および重点学科を重点的に建設していくことを発表した。現在、「211工程」対象校は計116校である³⁸。

一方、1998年5月4日、当時の国家主席江沢民が北京大学創立100周年大会で、「現代化の実現のため、中国は世界先進レベルの一流大学を建設するべき」と提言した。また、国家教育部は同年発表した「21世紀に向けた教育振興行動計画」では、世界一流の大学を目指す一部の大学を重点的に支援する始まった。それは教育領域における「985工程」と称されている。現在、「985工程」対象校は全部で38校である³⁹。

2015年10月、中国国務院が発表した「世界一流大学・一流学科建設の統一的推進のための全体案」では、2020年までに一部の大学及び学科が世界一流レベルを到達することを目標と定めた。中国では、2050年までに、高等教育強国を作る目標を掲げている⁴⁰。

また、1994年に国家教育委員会は「21世紀を目指す高等教育の教育内容及びカリキュラム体系の改革計画」を発表したこの改革計画では、高等教育に関する人材育成方案、カリキュラムなどの改革について詳しく説明している。社会の変化によって、カリキュラム編成また、大学の教養科目と専門科目のバランスを強化することなどが指摘された⁴¹。

この改革計画の内容に基づいて、大学で教養教育の科目が変化していった。

また1995年、国家教育委員会によって「大学生文化素質教育の推進に関する試行に関する通知」が公布された。これにより、選択の教養教育カリキュラムが大学へ正式に導入された⁴²。そして1998年、「大学生文化素質教育の強化に関する若干の意見」⁴³が公布され、教養教育と専門教育は有機的に融合することが明確に規定された⁴⁴。

各大学では、教養選択科目（通識選択科目）の設置が始まった⁴⁵。例えば、武漢大学では2004年から、「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」という5つの教養選択科目の領域が設定された。当時約50の教養選択科目が設置され、5つの領域から12単位を履修しなければならないと定められた⁴⁶。

中国国家教育部は1998年に「大学本科専攻学科目録（「普通高等学校本科專業目録」）」を公表した⁴⁷。中国における大学本科とは、4年制あるいは5年制の大学を指す。大学本科卒業生は、「学士」の学位を持つ「大卒」となる⁴⁸。同目録は、全国の本科における専攻の統一的な設置基準を示した目録である。大学の本科における学問領域を「哲学」、「経済学」、「法学」、「教育学」、「文学」、「歴史学」、「理学」、「工学」、「農学」、「医学」、「管理学」の11の学問分野に分け、学問分野のもとに大分類を設置し、さらに各大分類の下に専攻を細分化して体系化した⁴⁹。

例えば、「管理学」学問分野のもとに、「管理科学と工程」、「経営管理」、「農業経済管理」、「公共管理」、「図書情報とアーカイブズ管理」の5つの大分類が設定されている。さらに

「図書情報とアーカイブズ管理」の大分類のもとには、「図書館学専攻」、「アーカイブズ学専攻」、「情報資源管理専攻」といった3つの専攻が設定されている⁵⁰。「管理学」学問分野については、第4章で詳述する。

このような「大学本科専攻学科目録」に基づいて、各大学は専攻の開設・編成を行った⁵¹。

1999年6月には中国国務院により「中共中央国務院による教育改革の深化、全面的に文化素質教育を推進する教育改革に関する決定」が発表された。文化素質教育は、思想道德、文化、業務、身体心理、という4つの部分から成り、学生が様々な活動や授業を通して、「大学生の教養を向上させる」教育である。理系の学生には人文教育を受けさせ、文系の学生には自然科学の知識を身に着けさせることとされた⁵²。

現在、各大学は教養教育政策に基づき、カリキュラム改革を行っている。教養必修科目は、国家教養教育政策によって定められている。その一方で、教養選択科目の区分、内容は必ずしも全国一様ではなく、それぞれの大学の歴史や実情に応じて、定められている⁵³。

例えば武漢大学では、2004年から、教養選択科目として「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」という5つの領域を設定した。理系文系を問わず、教養選択科目12単位が修了要件となっている⁵⁴。なお、それぞれの領域から少なくとも2単位ずつ修得しなければならない。教養選択科目は2013年度に、学生がもっと幅広い領域の科目を選択できること目標として、5つの領域から7つの領域（「交流と作文領域」、「数学と推理領域」、「人文と社会領域」、「自然と工程領域」、「芸術と審美領域」、「中国と世界領域」、「研究と革新領域」）へと変更された⁵⁵。

1990年代以前、社会主義の建設に合わせて専門人材、特に理工系の専門人材を緊急に必要としたため、その時の中国高等教育の政策は専門知識を重視する方向へ発展していた。ところが、1990年以降、中国市場経済の発展と共に、知識基盤社会において幅広い知識を身に着ける人材が求められるようになった。これによって、専門に偏重する教育から脱却し、教養教育が重視されるようになったといえる⁵⁶。

2008年の国際金融危機を背景として、世界の経済は不安定になり、中国でも、景気が減速し、企業の求人数が大幅に減少したことにより、新卒者の就職難が社会問題となった⁵⁷。

こうした状況に対応するために、中国国務院は2009年、「大学卒業生の就職対策強化の通知」（「關於加強普通高等学校卒業生就業工作的通知」）を公布し、大学生の就業対策を強化すること及び就職率を向上させることを大学に求めた⁵⁸。また、中国人材資源社会保障部・全国人材流動センターの司益磊は「中国における市場経済が求めている人材と、大学が輩出している人材がマッチしていないことも大学生の就職難の1つの原因である」と、「大学卒業生の就職難への対策として、大学は経済社会に合わせた人材を育成するために、大学が学科を新設する場合、世界の経済変化、国家経済の発展の方向や将来動向を考慮に入れ、市場ニーズに見合った学科を設置するべきである」と指摘した⁵⁹。

一方、入試制度について、1950年、中国政務院は「大学の指導関係問題に関する決定」を発表し、大学の運営は、中央人民政府教育部による統一の方針によって運営していることを

強調した。例えば、学生の募集計画、また専攻と科目の設置や変更など、政府の教育主管部門が審査、決定した。改革開放以降も、大学の自主権がほとんど認められておらず、学科や専攻の設置も社会経済のニーズの変化に適合していない状況となっていた。大学自主権が拡大求められている⁶⁰。

1990年代以降、受験競争の過熱による様々な弊害が指摘されるようになり、ようやく2003年に「自主学生募集」が導入された⁶¹。背景には中国の高等教育が社会主義市場経済への移行に伴い、大学の自主権の拡大に関する調整が行われたことがある。大学の自主権は機関の設置と国際交流などの面でさらに拡大した。2003年度より、北京大学や清華大学などの22の大学の大学で「自主学生募集」という新たな制度が導入されるに至った⁶²。2009年度には76校に増加した。同方式では、各大学は独自の筆記試験および面接試験による一次試験の合格者を決定し、その後一次試験合格者は通常の「全国統一大学入学試験」に参加する。一次試験の合格者は当該大学の「全国統一大学入学試験」の合格の最低点を超えていれば合格とする方式が認められた。この大学独自の一次試験による入試は、入学生全体の5%以内とされた。しかし2009年、従来5%を上限としていた自主募集学生の入学生全体に対する割合を撤廃することを発表し、自主募集の学生は入学生全体の10%に達したという⁶³。

受験者資格については、2009年の中国国家教育部の「普通高等教育機関学生募集規定」により、下記のとおり3点が規定されている。

- ① 中華人民共和国憲法及び法律を守る者
- ② 高等学校卒業あるいはそれに相当する学歴を有する者
- ③ 身体健康の者⁶⁴。

入試統一試験の1か月前、学生が志望校を決めて願書を提出し、試験の結果により各大学が合否判定する。

中国国家教育部の試験センターが作成した問題は全国統一問題である。全国統一問題の以外に、省、直轄市、自治区によって、各省、各直轄市、各自治区の教育庁が作った統一問題を使用することも可能である⁶⁵。全国統一問題あるいは省、直轄市、自治区統一問題のどちらの問題を使用するかについては、各自が決定することができる⁶⁶。

2.2 中国の大学における専門教育としての図書館情報学教育の変遷

本節では、中国の経済の政策と高等教育の政策を概観し、中国の図書館の発展及び中国の大学における図書館学/図書館情報学教育の発展に関して概観する。建国前、建国初期、文化大革命期、調整期、発展期の5つの時期に分け、それぞれの特徴と問題点を示す。

2.2.1 建国前、高等教育成立期（1898年～1949年）

1910年代までの中国の図書館は、一般市民は利用することができなかった⁶⁷。1903年、武

昌文華大学に務めていたウッド女史 (Mary Elizabeth Wood, 中国名：韋棣華) の主導により武昌文華大学内に閲覧室が開設され、一般市民を対象に図書や図書館の宣伝活動が行われた⁶⁸。

民国⁶⁹初期の国民政府は、一般大衆向けの普及型図書館を推進した⁷⁰。しかし、一般市民、特に学生に公開される図書館は設立されたものの、当時の中国の大学と専門学校においては、図書館学専攻は1つもなかった。そのため1913年から、ウッド女史は図書館学専攻をもつ学校の設立に着手し始めた⁷¹。彼女は、図書館学専攻を持つ学校を設立するために1913年に自費で武昌文華大学卒業生の沈祖をアメリカのニューヨーク州立図書館学校に送った。また1917年、胡慶生をコロンビア大学に送った。1917年に帰国した沈と1920年に帰国した胡とウッド女史は、1920年3月、武昌文華大学に図書科を開設した⁷²。これが中国の大学における初の図書館学専攻となる。

この図書科はアメリカのニューヨーク州立図書館学校の制度を参考として、3年次に編入させ、2年の専門教育を行うこととされた。その後、大学卒業生あるいは大学で2年間以上在学した者が入学試験に合格すれば、入学を認めることとなった⁷³。

当時、中国の公共図書館は急速に増加していた⁷⁴。これに対応するために、武昌文華大学図書科の教授及び卒業生らは、多くの図書館学に関する専門人材を育成することを目的として、短期図書館訓練講習会を実施した。この講習会は、全国各地の大学や団体と連携し、図書館学/図書館情報学教育の発展に大きく貢献した⁷⁵。短期図書館訓練講習会だけではなく、高等師範学校や大学で図書館学の講義が開講された。例えば1920年、北京高等師範学校は各省の要請に応じて、夏季休暇図書館講習会を開設した。この講習会では沈祖栄などが講義を担当した⁷⁶。

1925年、文華大学は華中大学と改称され、文華大学図書科も華中大学に編入され、華中大学図書科となった。1927年、華中大学は廃校になったが、文華大学図書科は単独で運営されることとなった。1929年8月、華中大学が復活するとともに、南京国民政府教育部によって華中大学図書科として認可された。その後、1929年に、華中大学から離れ、独立の私立武昌文華図書館学専科学校 (略称：文華図専。以下「文華図専」) となった⁷⁷。

第2次世界大戦と4年間の国内戦争のため、中国の経済、教育は全体的に停滞状態を続け、図書館の発展も図書館学教育も大きな影響を受けた。文華図専は1940年から入学資格を高校卒業生としており、学制は2年となったことから教育の質は低下した⁷⁸。

2.2.2 建国初期、旧ソ連モデルの導入期 (1949年～1966年)

1949年10月1日、中華人民共和国が成立し、社会的・政治的に安定するとともに、図書館学教育にも大きな進展が見られた⁷⁹。1949年当時、中国の図書館学教育は北京大学図書館学系と私立武昌文華図書館専科学校の2校に限られていた。中国建国初期、図書や予算の不足、施設整備の不備、人材の不足、管理者の経験不足など、図書館は新しい社会の要求に

充分に対応することができなかった⁸⁰。

1952年、中国政府は全国で大学と学部・学科の調整を行う「院系調整」を実施した⁸¹。「院系調整」とは、「全国の大学・学部・学科に対する調整」（全国高等学校院系調整）であり、総合大学の「学部」を解消し、文理系のみの総合大学に改編した政策である⁸²。

翌1953年、文華図書は武漢大学に編入され、武漢大学図書館学専修科となった。1955年に2年制は3年制に変更され、さらにその翌1956年には名称を武漢大学図書館学系に変更され、4年制となった⁸³。

同1953年に北京大学も2年制から3年制科目の専修科となり、1956年に4年制科目の図書館学系に改組した⁸⁴。北京大学と武漢大学の2つの大学のほか、西南師範学院に図書館専修科、社会教育学院に図書館博物科が設置されたが、長くは続かなかった⁸⁵。

1956年に中国共産党中央委員会は「科学への進軍」をよびかけた。1956年7月、中国文化部により北京で第一回全国図書館活動会議が開かれ、図書館の方針は科学研究の支援と人民へのサービスにあることが示された⁸⁶。同年、社会主義建設「大躍進」⁸⁷が起こったため、図書館事業の発展に大きな影響を与えた⁸⁸。「大躍進」の影響で、図書館の基盤建設が無視され、異常に高い指標の追求が求められた⁸⁹。

この時期、大学が量的に拡大した一方、教育の本質が否定され、労働生産が重視された⁹⁰。このような状況で、新設された大学の中には、科目の設置が社会発展に合わないものも多く、また、多くの大学は教授や施設設備不足のために教育の質が低下した⁹¹。1958年以降、吉林師範大学、中国科学技術大学に新しい図書館学専修科、北京文化学院に図書館学研究班、河北文化芸術幹部学校、湖南文化芸術幹部学校、四川省財政貿易幹部学校などにそれぞれが設置されたが、1962年前後に廃止されることとなった⁹²。

2.2.3 文化大革命期（1966年-1976年）

1966年、「文化大革命」によって、中国の経済や教育などが全体的に停滞した。「十年の混乱」と呼ばれる文化大革命期に、中国の高等教育の制度や内容はすべて変更され、大きな打撃を受けた⁹³。

文化大革命以降、図書館学教育もほとんど停滞の状態に陥り、学生募集が行なわれなかった。武漢大学の図書館学系も休講となり、学生募集を停止した⁹⁴。文化大革命では、毛沢東主席の個人崇拜も推し進められた。当時、劉少奇や鄧小平らや多くの知識人を、経済発展のため資本主義の復活を図ることであるとして批判された⁹⁵。革命の邪魔であるとされた知識人や資産階級を迫害し、反革命分子として多くの教授が批判され、教学設備、図書資料などが損失を受けた。教授は農村に下放され、図書館学教育は完全に閉鎖された。武漢大学図書館学系の教育も停滞した⁹⁶。

1966年8月に中国共産党第8期中央委員会第11回全体大会で「中共中央の無産階級文化大革命に関する決定」（「中共中央關於無産階級文化大革命的決定」（以下「十六条」）が

公布され、文化大革命が全国的に展開された。「十六条」第十条により、教育は生産労働と融合し、社会主義の覚悟を持ったレベルの高い労働者を育成することを示した。さらに、文化大革命が高等教育にも波及することとなった⁹⁷。

この一連の政治運動の影響を受けて、図書館学教育も大きな破壊を蒙った。文化大革命期間中に、数多くの大学が解体或いは移転させられ、大学の建物も占拠された⁹⁸。全国的に図書館学教育も停滞し、学生募集が行なわれなかつただけでなく、教授も離散し、専門研究もまったく行なわれなかつた⁹⁹。

1970年には全国の他の多くの専攻が学生募集を再開したが、図書館学教育は依然として再開されなかつた。1972年に、北京大学と武漢大学が図書館学専攻の学生募集を再開したが、2年制になった。1977年に、北京大学は2年制から4年制に変更され、武漢大学は3年制となった。さらに1978年、武漢大学も4年制になった¹⁰⁰。

十数年にわたる政治運動と社会的混乱によって、中国の経済、教育は大きな打撃を受け、先進諸国に比べると、大幅に遅れてしまった。

2.2.4 改革開放期（1976年-1989年）

1976年以降、図書館学教育は新しい段階に入り、その規模を拡大していった。1980年5月に中国共産党中央委員会第23回の会議で「図書館活動報告綱要」（図書館工作滙報綱要）が公表された。「報告綱要」では、図書館事業の発展が緊急課題とされ、図書館を新設及び再建することが必要であるという決定がなされた¹⁰¹。

1978年12月には中国科学院は「中華科学院図書館情報活動暫定条例（草案）」を制定し、1982年12月には国家文化部が「省（自治区、市）図書館活動条例」を公表した。この2つの条例により、研究図書館、大学図書館、公共図書館という主要な3つの系統の図書館が大きく発展することとなった¹⁰²。

この時期の図書館数については、1980年には全国公共図書館が1,732館となり、1989年には2,512館に増加した¹⁰³。これによって、図書館の人材不足が起こり、図書館学教育が必要となった。このような状況を改善するために、1976年から1990年の間に10校を超える大学が図書館学/図書館情報学専攻を開設し、これまでの開設校が北京大学と武漢大学の2校という限定的な局面が打開された¹⁰⁴。

2.2.5 発展期（1990年-現在）

1990年代に入り、中国における計画経済から社会主義市場経済への移行に伴う教育政策は大きく変化してきた¹⁰⁵。1999年に国家国務院が公布した「21世紀に向けた教育振興行動計画」によって、学生募集数は年々増加した。例えば、大学院における全国での学生募集の規模は、2002年の178人から2006年には338人へ増加し、増加率は89.9%となった¹⁰⁶。

一方 1990 年代以降、インターネット時代における情報化の進展に伴って、中国においても図書館情報学教育に関する新たな改革が始まった。なかでも重要なのは、図書館学/図書館情報学教育改革と、これに伴う機関の名称変更である¹⁰⁷。最初に図書館情報学部の名称変更を進めたのは、北京大学であり、1992 年に、学部の名称を図書館情報学系から信息管理系に改称した¹⁰⁸。

次いで 2001 年、武漢大学図書館情報学院は信息管理学院に改名された。武漢大学は図書館情報学教育の改革を深化させ、図書館学専攻のほか、出版学専攻、電子ビジネス学専攻その他の新たな専攻を増やした¹⁰⁹。1990 年 11 月、中国国务院学位委員会¹¹⁰の許可を得て北京大学は中国初の図書館学の博士学位を授与する資格を得、武漢大学は中国初の情報学の博士学位の授与する資格を得た¹¹¹。

2000 年 9 月、中国国家国务院学位委員会は、武漢大学に「図書館学」の国家重点学科¹¹²設置を認定するとともに博士学位を授与する資格を与えた。北京大学も相次いで国务院学位委員会の許可を得、中国初の出版発行学、信息資源管理学の博士学位を授与する資格を得た¹¹³。

また、図書館情報学の専攻は大きく発展し、さまざまな情報学に関する科目が増加した。例えば、北京大学信息管理系は 2001 年に「デジタル図書館」という科目を設置し、武漢大学信息管理学院は「デジタル図書館とネットワーク資源管理」という科目を設置した¹¹⁴。

2006 年から科学的発展観の提唱に伴って、経済・社会・政治・文化など「全面的」かつ協調した改革深化の要求に基づき、世界の図書館の動向を分析しつつ、中国の図書館事業の発展と図書館の現状を総合した中国国家図書館「十一五」計画要綱が制定された¹¹⁵。

このような動きに伴い、教養科目の設置が重要になった。「幅広い」という要素は設置基準の 1 つの要求となった。武漢大学では 2004 年から、教養選択科目（通識選択科目）として「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」という 5 つの領域が設定された。武漢大学の設置基準では、約 50 の教養選択科目が設置され、この 5 領域の教養選択科目から 12 単位を履修しなければならないと定められた¹¹⁶。なおこの 5 領域は、2013 年度に 7 領域（「交流と作文領域」、「数学と推理領域」、「人文と社会領域」、「自然と工程領域」、「芸術と審美領域」、「中国と世界領域」、「研究と革新領域」）に変更された¹¹⁷。

2.3 まとめ

本章では、まず、中国の大学における教養教育政策の変遷を概観し、また、中国の専門教育の変化中国の大学における図書館学/図書館情報学教育の発展に関して述べた。1990 年代まで、中国の大学では専門教育を中心に様々な改革を行い、1990 年代後は教養教育を中心に改革された。教養教育の変遷について、中国では、1898 年から「通識教育」（教養教育）の改革が行われた。1992 年に市場経済の導入とともに高等教育の改革は「旧ソ連モデル」

から「アメリカ型」へ転換した。特に、2001年にWTOに参加して以来、カリキュラムの国際化が重要になり、国際人材育成が重視されている。これによって、「欧米型+中国伝統」の教養教育モデルを模倣した教養教育改革が進められている¹¹⁸。

専門教育の変遷について、1990年代以前、社会主義の建設に合わせて専門人材を緊急に必要としたため、その時の中国高等教育の政策は基本技能と専門知識を重視する方向へ発展していた。ところが、1990年以降、中国市場経済の発展と共に、知識基盤社会において幅広い知識を身に着ける人材が求められるようになった。これによって、専門に偏重する教育から脱却し、教養教育が重視するようになった。この背景に合わせたカリキュラム改革も行われた¹¹⁹。

また、中国における図書館情報学教育の変遷について、建国前（1949年以前）、建国初期、文化大革命期、調整期、発展期の5つの時期に分け、それぞれの特徴と問題点を示した。辛亥革命後、特に1920年代以降に中国の図書館学教育は発展してきた。1949年まで、第2次世界大戦と4年間の国内戦争が続いたため、中国の国力は非常に弱まった¹²⁰。

1949年中華人民共和国成立によって、社会的、政治的に安定するようになり、図書館学教育も大きな発展していく。1949年当時、旧中国が残した文華図専は改編され、1953年に武漢大学に編入された¹²¹。図書館学教育は次第に発展していったが、1966年からの文化大革命の時期に一連の政治運動の影響をうけて、図書館学教育と図書館事業は10年間にわたって停滞した¹²²。

1978年改革開放以降に図書館学教育は回復したものの、先進諸国に比べると大幅に遅れてしまった。1978年以降、中国は改革開放政策の指導の下、経済の発展とともに図書館事業も進展してきた。1978年以降、中国国家図書館の新館（1999年開館）、上海図書館の新館（1996年開館）をはじめ多くの新館が開館し、図書館の全体的発展を促進した。1990年以降、インターネット時代において、中国政府は科学的発展観の要求に基づき、中国の図書館情報学は発展してきた。

¹ 史媛媛. “中国における重点大学の先導的事例にみる教養教育 改革に関する研究”. 九州大学学術情報リポジトリ, 2015, 196, 博士論文. p. 32.

² 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察: 教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 182.

³ 史媛媛. “中国における重点大学の先導的事例にみる教養教育 改革に関する研究”. 九州大学学術情報リポジトリ, 2015, 196, 博士論文. p. 33.

⁴ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察: 教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 182.

⁵ 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 7.

-
- 6 大塚豊. “現代中国高等教育の成立”. 玉川大学出版社. 1996, p. 165-233.
- 7 馬叙倫. 五年来新中国的高等教育. 人民教育. 1954, vol. 1, p. 32.
- 8 大塚豊. “現代中国高等教育の成立”. 玉川大学出版社. 1996, p. 165-233.
- 9 蘇渭昌. “五十年代の院系調整”. 中国高等教育研究 50 年 1949-1999. 陳向明編. 教育科学出版社, 1999, p. 1863-1868.
- 10 大塚豊. “現代中国高等教育の成立”. 玉川大学出版社. 1996, p. 165-233.
- 11 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 122.
- 12 大塚豊. “現代中国高等教育の成立”. 玉川大学出版社. 1996, p. 165-233.
- 13 黄福涛. “大学のカリキュラム改革”. 1990 年代以降の中国高等教育の改革と課題. RIHE. 2005, vol. 81, p. 99.
- 14 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p4.
- 15 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 12.
- 16 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 11.
- 17 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 4.
- 18 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 12.
- 19 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察: 教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 182.
- 20 中国で実施されている大学入試システムである。通称「高考」。
参照: 謝妍笑. “大学入試改革”. 中国における高等教育の変貌と動向:2005 年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 45.
- 21 謝妍笑. “大学入試改革”. 中国における高等教育の変貌と動向:2005 年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 47.
- 22 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 13.
- 23 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 13.
- 24 横松良介. 中国の学校教育制度と大学入試制度改革. 北京研究連絡センター, 2016, p. 12.
- 25 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p93.

-
- ²⁶ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p94.
- ²⁷ 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について：北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 13.
- ²⁸ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 183.
- ²⁹ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 183.
- ³⁰ 羽田貴史編. グローバル社会における高度教養教育を求めて. 東北大学出版会, 2018, p. 288.
- ³¹ 羽田貴史編. グローバル社会における高度教養教育を求めて. 東北大学出版会, 2018, 375p. 2013. p. 282.
- ³² 史媛媛. “中国における重点大学の先導的事例にみる教養教育改革に関する研究”. 九州大学学術情報リポジトリ, 2015, 196, 博士論文. p. 50.
- ³³ 鄧新培, 小島麗逸. 中国教育の発展と矛盾. 御茶ノ水書房. 2002, p. 70.
- ³⁴ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 122.
- ³⁵ 中国高等教育学会編. “改革開放 30 年中国高等教育発展経験專題研究 1978～2008. 教育科学出版社. 2008, p. 65-67.
- ³⁶ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 122.
- ³⁷ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 183.
- ³⁸ 中国の科学技術の今を伝えるのウェブサイト. 「211 プロジェクト」. http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_2/2_1/2_1_1.html. (参照：2019. 1. 10) .
- ³⁹ 中国の科学技術の今を伝えるのウェブサイト. 「985 プロジェクト」. http://www.spc.jst.go.jp/education/education/education_05.html. (参照：2019. 1. 10) .
- ⁴⁰ 海外学術動向ポータルサイト. 「3 つの部門・委員会責任者が世界一流大学・一流学科建設リストを解説」. 日本学術振興会. 2017.
- ⁴¹ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 183.
- ⁴² 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 124.
- ⁴³ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大

学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 124.

⁴⁴ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 125.

⁴⁵ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察: 教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 183.

⁴⁶ 黄福涛. “大学のカリキュラム改革(1990 年代以降の中国高等教育の改革と課題)”. RIHE. 2005, vol. 81, p. 106.

⁴⁷ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 84.

⁴⁸ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 8.

⁴⁹ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 84.

⁵⁰ 大学本科専攻学科目録: 新旧専攻学科対照表 (2012 年 9 月).

⁵¹ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 84.

⁵² 黄福涛. “大学のカリキュラム改革”. 1990 年代以降の中国高等教育の改革と課題. RIHE. 2005, vol. 81, p. 105.

⁵³ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察: 教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 184.

⁵⁴ 黄福涛. “大学のカリキュラム改革”. 1990 年代以降の中国高等教育の改革と課題. RIHE. 2005, vol. 81, p. 106.

⁵⁵ 武漢大学信息管理学院における 2013 年度の図書館学専攻教育計画表.

⁵⁶ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 119.

⁵⁷ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p173.

⁵⁸ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p173.

⁵⁹ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p 175.

⁶⁰ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 80-81.

⁶¹ 南部広孝. “中国の大学入学者選抜における推薦入学制度の変遷”. 大学論集. 広島大学高等教育研究開発センター編. 2005, p. 179.

⁶² 謝妍笑. “大学入試改革”. 中国における高等教育の変貌と動向:2005 年以降の動きを中

心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 47.

⁶³ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 94.

⁶⁴ 中国教育部「2009 年普通高等教育機関学生募集規定」.

http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_297/201001/79905.html (参照: 2019. 1. 10) .

⁶⁵ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 94.

⁶⁶ 謝妍笑. “大学入試改革”. 中国における高等教育の変貌と動向: 2005 年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 46.

⁶⁷ 文華図書科季刊. 文華図書科. 1931, vol. 3, no. 3, 361p.

⁶⁸ 呉建中ほか. 中国の図書館と図書館学: 歴史と現在. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 38.

⁶⁹ 中華民国での年号. 1912 年を元年とする.

⁷⁰ 呉建中ほか. 中国の図書館と図書館学: 歴史と現在. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 55.

⁷¹ 丁健. 近代中国における図書館人材養成機関の設立: 武昌文華図書館学専科学校を中心に. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 2012. vol. 52, p. 268.

⁷² 文華図書科季刊. 文華図書科. 1931, vol. 3, no. 3, p. 337.

⁷³ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 3.

⁷⁴ 呉建中ほか. 中国の図書館と図書館学: 歴史と現在. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 144.

⁷⁵ 丁健. 近代中国における図書館人材養成機関の設立: 武昌文華図書館学専科学校を中心に. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 2012. vol. 52, p. 269.

⁷⁶ 金敏甫, “中国現代図書館教育述略”, 武昌文華図書科季刊. Vol. 2, No. 4, 1930, p. 1-3.

⁷⁷ 黄宗忠, “武汉大学図書館学系六十年—兼評文華図專和韋棣華在我国図書館事業史上的作用”, 武汉大学学报 (哲学社会科学版). No. 6, 1980, p. 78.

⁷⁸ 呉慰慈. “中国図書館学情報学教育の改革と発展”, 中日図書館情報学研究進展. 北京大学信息管理系, (日) 筑波大学図書館情報学系. 中文版, 北京図書館出版社, 2005, p. 1-19.

⁷⁹ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 3.

⁸⁰ 呉建中ほか. 中国の図書館と図書館学: 歴史と現在. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 82.

-
- ⁸¹ 蘇渭昌. “五十年代の院系調整”. 中国高等教育研究 50 年 1949—1999. 陳向明編. 教育科学出版社, 1999, p. 1863.
- ⁸² 熊明安. “我国高等学校幾次重大調整的回顧与評価”. 中国高等教育研究 50 年 1949—1999. 陳向明編. 教育科学出版社, 1999, p. 1869—1873.
- ⁸³ 黄宗忠, “武汉大学図書館学系六十年一兼評文華図専和韋棣華在我国図書館事業史上的作用”, 武汉大学学報 (哲学社会科学版). No. 6, 1980, p. 78.
- ⁸⁴ 中国大百科全書. “図書館学情報学档案学”, 中国大百科全書・図書館学情報学档案学, 北京, 中国大百科全書出版社, 1993, p. 10.
- ⁸⁵ 吳慰慈, “新中国図書館事業建設的主要成就: 記念建国三十五周年図書館專輯 (二)”, 図書館学通讯. No. 1, 1985, p. 6.
- ⁸⁶ 吳建中ほか. 中国の図書館と図書館学. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 76.
- ⁸⁷ 1958 年毛沢東主席によって提起された社会主義建設の総路線の主導のもと、いわゆる経済の「大躍進」と人民公社設立の全国的な大衆運動が展開された。1958 年の大躍進は自然条件にも恵まれ、高揚した全国的大衆運動のなかで、農工業生産の大幅な増産が達成された。例えば、鉄鋼生産運動で、全国的に高炉が建設され、多くの人間が動員された。しかし、製品の質が悪くなった。
- つまり、毛澤東主席がアメリカ、イギリスなどの先進国を追い越すことを夢見て、中国で実施した工業・農業の大増産政策である。
- 出典：中国の科学技術の今を伝えるウェブサイト。「高等教育の現状と動向」
http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_3/3_1/3_1_4.html (参照：2019. 1. 10)。
- ⁸⁸ 吳建中ほか. 中国の図書館と図書館学. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 77.
- ⁸⁹ 吳建中ほか. 中国の図書館と図書館学. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 78.
- ⁹⁰ 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 9.
- ⁹¹ 鄧新培; 小島麗逸. 中国教育の発展と矛盾. 御茶ノ水書房. 2002, p. 42.
- ⁹² 吳慰慈, “新中国図書館事業建設的主要成就: 記念建国三十五周年図書館專輯 (二)”, 図書館学通讯. No. 1, 1985, p. 6.
- ⁹³ 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 11.
- ⁹⁴ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 4.
- ⁹⁵ 小林文男. 中国の教育改革と入試体制: 文化大革命下の高等教育の現状. 教育学研究. 1975, vol. 42, no. 4, p. 292-297.
- ⁹⁶ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向け

た図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 4.

⁹⁷ 小林文男. 中国の教育改革と入試体制: 文化大革命下の高等教育の現状. 教育学研究. 1975, vol. 42, no. 4, p. 292.

⁹⁸ 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文, p. 12.

⁹⁹ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 4.

¹⁰⁰ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 4.

¹⁰¹ 中国国家文物事業局編. 図書館工作滙報綱要. 1980.

¹⁰² 呉建中ほか. 21世紀の図書館: 世界のなかの中国の図書館. 京都大学図書館情報学研究会. 2007, p. 80.

¹⁰³ 中国図書館学会, 国家図書館. “按年份全国公共図書館主要業務活動情況”. 中国図書館年鑑 2016. 国家図書館出版社, 2017, p. 420.

¹⁰⁴ 董小英. “国図書館学情報学教育的伝型及其問題”. 中国図書館学報. Vol. 22, No. 101, 1996, p. 28-29.

¹⁰⁵ 鄧新培, 小島麗逸. 中国教育の発展と矛盾. 御茶ノ水書房. 2002, p. 70.

¹⁰⁶ 肖希明, 司莉, 黄如花. “我国図書館学教育發展現狀的調查分析”. 図書館情報知識. 2008, p. 11-16.

¹⁰⁷ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 5.

¹⁰⁸ 李常慶. “中国の図書館情報学の最近の動向”. 図書館情報学のアイデンティティ (論集・図書館情報学研究の歩み 第18集). 日本図書館情報学会研究委員会編, 東京, 日外アソシエーツ, 1998, p. 175-186.

¹⁰⁹ 武漢大学信息管理學院編. 求实奮進共譜新篇-从文華圖專到武漢大学信息管理學院 (1920~2010). 第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 13.

¹¹⁰ 中国の高等教育機関の学位授与制度は、学位を「学士」、「修士」、「博士」の3種類に区分し、国務院に設置された学位委員会が全国の大学等による学位授与を管理することを定めている。

学位委員会は、一定の条件を備えた大学や科学研究機関に対して学位授与権限を付与し、学位授与権限を認められた大学の学科等の学位授与拠点が学位取得申請者の学術審査を行い、その結果を国務院および学委員会へ報告する。

出典：中国の科学技術の今を伝えるウェブサイト。「高等教育の現状と動向」
http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_3/3_1/3_1_4.html（参照：2019.1.10）。

¹¹¹ 陳伝夫, 呉鋼, 盛釗, 丁寧, 張法; 梁桂熟 (訳). 新中国図書館情報学教育の歩みと展望. 図書館界. 2012, vol. 63, no. 6, p. 454. (新中国図書館の60年5シリーズ)。

¹¹² 中国高等教育改革発展網. ウェブサイトより <http://www.hie.edu.cn/> (参照 2019.1.10)。

¹¹³ 陳伝夫, 呉鋼, 盛釗, 丁寧, 張法; 梁桂熟 (訳). 新中国図書館情報学教育の歩みと展望. 図書館界. 2012, vol. 63, no. 6, p. 454. (新中国図書館の60年5シリーズ)。

¹¹⁴ 呉建中ほか. 中国の図書館と図書館学. 初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 86.

¹¹⁵ 范興坤. 1997年以来我国高校図書館事業政策発展階段性特征述評 (下). 大学図書館学報. 2011, p. 27-30.

¹¹⁶ 黄福涛. “大学のカリキュラム改革”. 1990年代以降の中国高等教育の改革と課題. RIHE. 2005, vol. 81, p. 106.

¹¹⁷ 武漢大学信息管理学院における2013年度の図書館学専攻教育計画表.

¹¹⁸ 羽田貴史編. グローバル社会における高度教養教育を求めて. 東北大学出版会, 2018, p. 288.

¹¹⁹ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 119.

¹²⁰ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 3.

¹²¹ 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 3.

¹²² 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 4.

3. 武漢大学および同大学信息管理学院図書館学専攻の概略と略史

本章では、文献調査について、武漢大学の概要、武漢大学信息管理学院の略史、及び武漢大学信息管理学院の現状について概観する。

3.1 武漢大学の概要

武漢大学は、中国の湖北省武漢市に位置する国立大学である。中国を代表する名門大学の1つであり、211工程及び985工程に指定された重点大学の1つである¹。

1893年に張之洞により創設された自強学堂は武漢大学の前身であり、中国で最も歴史がある大学の1つである。同校は、1928年に現在の武漢大学に改名された。1928年の「国立武漢大学」は、近代中国で最初に設立された国立大学の1つであり、2000年には「湖北医科大学」、「武漢水利電力大学」、「武漢測繪技術大学」と3校と統合し、大学の規模を拡大した²。武漢大学は、国家教育部の直轄下に置かれる大学である。

武漢大学は現在、人文科学、社会科学、理学、工学、信息科学および医学の6学部があり、その学部のもとに、35学院、122専攻が設置されている。在校生数は、大学院生は17,467人、学部生は31,277人、合計48,744人である³。教員数は、約3500人である。

3.2 武漢大学信息管理学院の略史

武漢大学信息管理学院は、社会科学部のもとに設置されている。表3-1に示すように、組織改編を繰り返してきた。本節では、武漢大学信息管理学院の歴史を簡単に述べる。

表 3-1 武漢大学信息管理学院の前身組織の名称および学系・専攻の変遷

設置年	名称	学系の設置	専攻	学制
1920年	文華大学文華図書科	なし	図書館学専攻	2年制
1925年	華中大学文華図書科	なし	図書館学専攻	2年制
1929年	私立武昌文華 図書館学専科学校 (略称：文華図専)	なし	図書館学専攻	2年制
1951年	国立武昌文華 図書館学専科学校 (略称：文華図専)	なし	図書館学専攻	2年制
1953年	武漢大学 図書館学専修科	なし	図書館学専攻	2年制 1955年、 3年科目に 変更
1956年	武漢大学 図書館学学系		図書館学専攻 *1978年、科学情報学 専攻を設置	4年制
1984年	武漢大学 図書館情報学院	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館学/図書館情報学系 ・図書発行学系 ・アーカイブズ学系 ・科学情報学系 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館学専攻 ・図書発行学専攻 ・アーカイブズ学専攻 ・科学情報学専攻 	4年制
2001年	武漢大学 信息管理学院	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館学系 ・情報管理科学系 ・アーカイブと政務情報管理学系 ・出版科学系 ・電子ビジネス学系 (2002年度より) ・保密管理学系 (2018年度より開設) 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館学専攻 ・情報管理と情報システム学専攻 ・アーカイブズ学専攻 ・デジタル出版学専攻 ・電子ビジネス学専攻 (2002年度より) ・編集出版学専攻 (2003年度より)、 	4年制

(出典：武漢大学信息管理学院編．“求实奮進共譜新篇：从文華図専到武漢大学信息管理学院（1920～2010）”．2010.より作成)

1920年3月、アメリカ人のウッド女史（Mary Elizabeth Wood, 中国名：韋棣華）によって中国における最初の図書館学専攻を持つ高等教育機関である武昌文華大学図書科が設立

された。大学を卒業した者あるいは大学に2年間以上在籍した者が入学試験を受ける資格があるとされた⁴。

1925年、文華大学が改組され、華中大学となり、名称が華中大学文華図書科と改められた。1927年秋、華中大学は廃校になったが、廃校後も文華図書科は引き続き単独で運営された。1929年9月に華中大学が復活した際に、再び華中大学の文華図書科となった。1930年に正式に華中大学を離れ、1949年まで独立の図書館学専科学校として、「私立武昌文華図書館専科学校」となった。

1938年当時、国民政府の首都は武漢であったが、第2次世界大戦の激戦区であったため、重慶に移され、私立武昌文華図書館専科学校も同年、重慶に移転された。1940年、これまで「大学卒業を卒業した者あるいは大学に2年以上在籍した者」とされていた入学資格が、「高等学校を卒業した者」と変更された。また、重慶も、戦争の状態に陥って、私立武昌文華図書館専科学校も爆撃を受け、教育の質も低下した。以降、このような状況が続き、1949年まで私立武昌文華図書館専科学校の図書館学教育には大きな進歩が見られなかった⁵。なお、1949年終戦当時、中国の大学で図書館学教育が行われていたのは私立武昌文華図書館専科学校のほか、北京大学のみであった⁶。

1952年、「院系調整」が全国的に実施された⁷。院系調整とは、第2章第2節で述べた通り、「全国の大学・学部・学科に対する調整」（全国高等学校院系調整）であり、総合大学の「学部」を取り消し、文理系のみを総合大学に改編した政策である。この院系調整に伴い、翌1953年、私立武昌文華図書館専科学校は武漢大学に編入され、武漢大学図書館学専修科となった⁸。

1966年の文化大革命以降、中国における図書館学教育はほぼ停滞状態に陥り、全国の大学の図書館学専攻は完全に閉鎖され、学生募集も実施されなかった。十数年にわたる政治運動と社会的混乱によって、中国の図書館学教育は大きな打撃を受け、先進諸国に比べると、質的にも量的にもかなり遅れることとなった⁹。

1980年代以降、中国の「現代化建設」に合わせて、大学や学生数の規模の拡大政策がとられた。こうした高等教育拡大政策の下で、1984年4月、武漢大学は図書館学系を図書館情報学院に改称し、図書館学学系、図書発行学系、アーカイブズ学系、科学情報学系という4つの学系を設置した。図書館学系には図書館学専攻、図書発行学系には図書発行学専攻、アーカイブズ学系にはアーカイブズ学専攻、科学情報学系には科学情報学専攻を設置した¹⁰。

1981年11月、武漢大学は初めて国务院学位委員会の許可を得て、図書館学の修士学位を授与する資格を得た¹¹。

3.3 武漢大学信息管理學院の現在

1990年以降、中国の図書館学/図書館情報学教育に関する改革は大きく進展した。最も重要なのは教育機関の名称変更およびそれに伴う教育改革である¹²。武漢大学図書館情報学院

は、2001年に信息管理学院に改名された。図3-1は、武漢大学信息管理学院の教育組織図である。本研究では、学部教育を対象とするため、同図は学部の研究組織に限定したものである。信息管理学院のもとに、2001年度に、図書館学系、情報管理科学系、アーカイブと政務情報管理学系、出版科学系、2002年度より電子ビジネス学系、2018年度に保密管理学系という6つの教育組織いわゆる「系」が設置された。2001年度に、図書館学系には図書館学専攻、情報管理科学系には情報管理と情報システム学専攻、アーカイブと政務情報管理学系にはアーカイブズ学専攻、出版科学系には編集出版学専攻が設置された。さらに、2002年度に電子ビジネス学系に電子ビジネス学専攻、2003年度に編集出版学専攻が設置された¹³。現在も、この教育組織が維持されている。

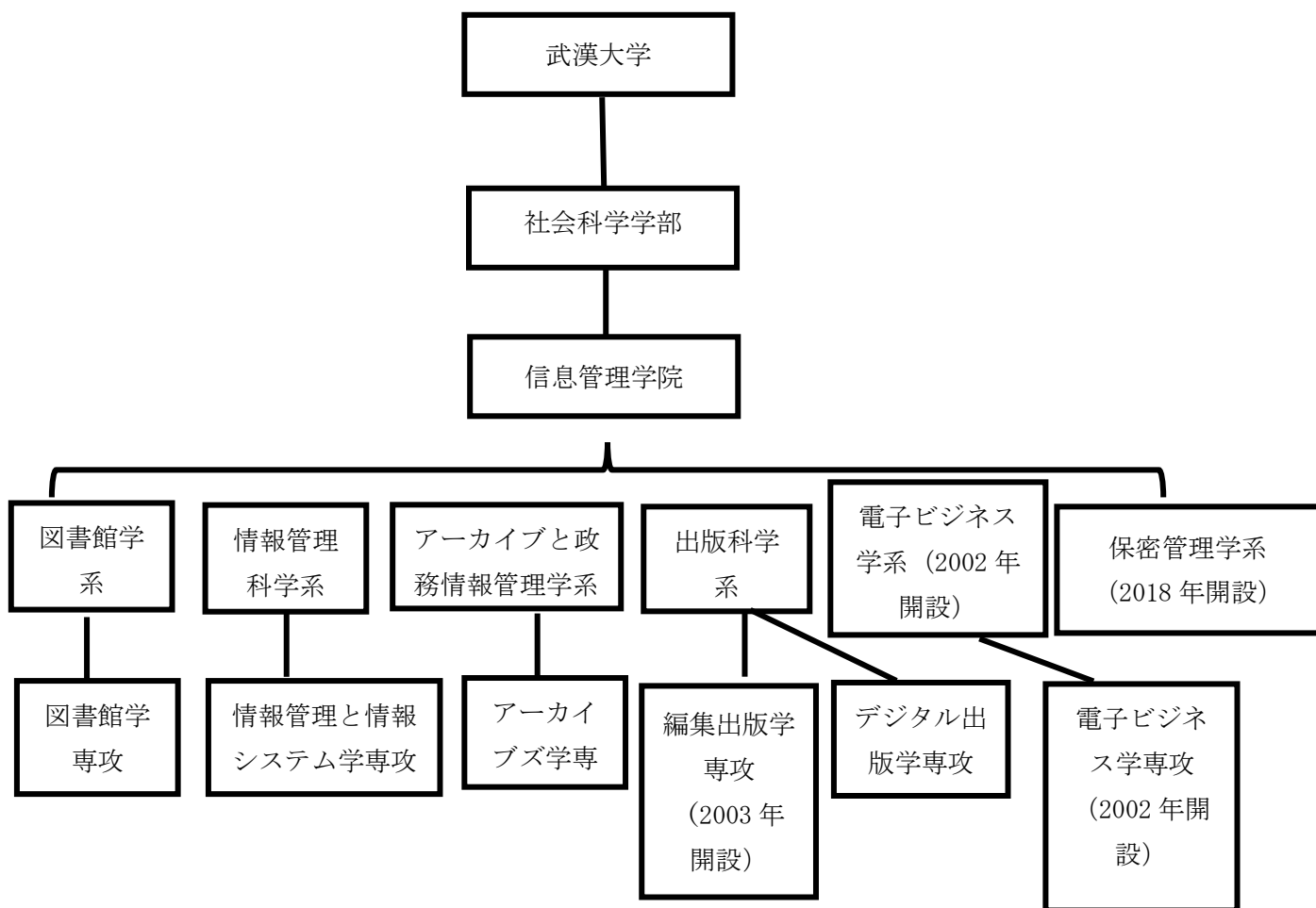


図 3-1 武汉大学信息管理学部レベル教育組織

(出典：武汉大学信息管理学院的ウェブサイトより作成)

図書館学専攻を修了すると、学士（管理学）が授与される。入学・収容定員は、入学定員は46人、収容定員（大学が、受け入れることができる学生の数）は、184人である。

武汉大学信息管理学院的教員は、それぞれの学系に所属している¹⁴。図書館学専攻の教員は、図書館学系に所属しており、15名で構成されている。うち教授が1名、副教授が3名である。

表 3-2 武漢大学信息管理学院図書館学系の教員（2019 年 1 月現在）

（出典：武漢大学信息管理学院における図書館学系のウェブサイトより作成）

図書館学系	
名前	名前
陳伝夫	司 莉
黄 亮	吳 丹（教授）
黄如花	吳 鋼（副教授）
李明傑	吳志強（副教授）
陸穎儁	肖希明
彭斐章	楊思洛（副教授）
彭敏惠	周力虹
冉从敬	

3.4 まとめ

本章では、武漢大学の概要と武漢大学における信息管理学院の略史を概観した。

武漢大学は、中国の湖北省武漢市に位置する国立大学である。1893 年に張之洞により創設された自強学堂は武漢大学の前身であり、中国で最も歴史がある大学の 1 つである¹⁵。

武漢大学信息管理院の前身は 1929 年設立した武昌文華図書館学専科学校であった¹⁶。1900 年代からウッド女史を中心に行われた市民が利用することができる図書館建設運動が進められた。また、図書館人材不足の問題に対応するためにウッド女史が 1929 年、中国の武昌にてアメリカのニューヨーク州立図書館学校をモデルとする中国最初の図書館情報学教育機関として、武昌文華図書館学専科学校を設立した。中国最初の図書館学/図書館情報学専攻の設置が、図書館の発展に大きな貢献をした¹⁷。

1953 年、文華図専は武漢大学に編入され、武漢大学図書館学専修科となった。1955 年に 2 年制は 3 年制に変更され、さらにその翌 1956 年には名称を武漢大学図書館学系に変更し、4 年制となった。

1980 年代以降、大学や学生数の規模拡大の下、1984 年 4 月、武漢大学は図書館学系を図書館情報学院に改称し、図書館学系、図書発行业系、アーカイブズ学系、科学情報学系という 4 つの学系を設置した。図書館学系には図書館学専攻、図書発行业系には図書発行业専攻、アーカイブズ学系にはアーカイブズ学専攻、科学情報学系には科学情報学専攻を設置し

た¹⁸。

1990年代以降、インターネット時代における情報化の進展に伴って、図書館情報学教育機関の名称変更およびそれに伴う教育改革が開始した。最初に図書館情報学部名の名称変更を進めたのは、北京大学である。1992年に、学部の名称を図書館情報学系から信息管理系に改称した。次いで2001年、武漢大学図書館情報学院は信息管理学院に改名された。武漢大学は図書館情報学教育の改革を深化させ、図書館学専攻のほか、出版学専攻、電子ビジネス学専攻その他の新たな専攻を増設した。2018年1月現在、信息管理学院には、図書館学系、情報管理科学系、アーカイブと政務情報管理学系、出版科学系、電子ビジネス学系、保密管理学系という6つの「系」が設置された。図書館学系には図書館学専攻、情報管理科学系には情報管理と情報システム学専攻、アーカイブと政務情報管理学系にはアーカイブズ学専攻、出版科学系には編集出版学専攻、電子ビジネス学系に電子ビジネス学専攻、編集出版学専攻が設置された¹⁹。

¹ 武漢大学信息管理学院。「大学概観」<http://www.whu.edu.cn/index.htm>(参照:2019.1.10)。

² 武漢大学信息管理学院。「大学概観」<http://www.whu.edu.cn/index.htm>(参照:2019.1.10)。

³ 武漢大学信息管理学院。「大学概観」<http://www.whu.edu.cn/index.htm>(参照:2019.1.10)。

⁴ 李常慶。“中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究。東京,2004-12-18。文部省科学研究費基盤研究, p. 3。

⁵ 李常慶。“中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究。東京,2004-12-18。文部省科学研究費基盤研究, p. 3。

⁶ 吳建中ほか。中国の図書館と図書館学：歴史と現在。初版, 京都大学図書館学研究会, 2009, p. 82。

⁷ 蘇渭昌。“五十年代の院系調整”。中国高等教育研究 50年 1949—1999。陳向明編。教育科学出版社, 1999, p. 1863—1868。

⁸ 黄宗忠。“武漢大学図書館学系六十年：兼評文華図専和韋棣華在我国図書館事業史上的作用”, 武漢大学学报(哲学社会科学版)。No. 6, 1980, p. 78。

⁹ 李常慶。“中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究。東京,2004-12-18。文部省科学研究費基盤研究, p. 4。

¹⁰ 武漢大学信息管理学院編。求实奮進共譜新篇：从文華図専到武漢大学信息管理学院(1920~2010)。第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 11。

¹¹ 張白影, 苟昌榮, 瀋繼武。中国図書館事業 10年。湖南大学出版社, 1989, p. 617。

¹² 李常慶。“中国における図書館情報学教育の変遷および展望” 情報専門職の養成に向け

た図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 5.

¹³ 武漢大学信息管理學院編. 求实奮進共譜新篇：从文華図専到武漢大学信息管理學院（1920～2010）. 第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 12-13.

¹⁴ 武漢大学信息管理學院. 「院系設置」 <http://www.whu.edu.cn/jgsz/yxsz.htm>（参照：2019. 1. 10）.

¹⁵ 武漢大学のウェブサイト. 「大学概観」 <http://www.whu.edu.cn/xxgk/xxjj.htm>.（参照：2019. 1. 10）.

¹⁶ 武漢大学のウェブサイト. 「大学概観」 <http://www.whu.edu.cn/xxgk/xxjj.htm>.（参照：2019. 1. 10）.

¹⁷ 丁健. 近代中国における図書館人材養成機関の設立：武昌文華図書館学専科学校を中心に. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 2012. vol. 52, p. 269.

¹⁸ 武漢大学信息管理學院編. 求实奮進共譜新篇：从文華図専到武漢大学信息管理學院（1920～2010）. 第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 11.

¹⁹ 武漢大学信息管理學院編. 求实奮進共譜新篇：从文華図専到武漢大学信息管理學院（1920～2010）. 第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 12-13.

4. 武漢大学信息管理學院におけるカリキュラム改革前の図書館情報学教育

前章で述べた通り、武漢大学信息管理學院は、2001年度に、図書館情報學院から改名された。その後、2013年度および2018年度にカリキュラム改革が実施されている。本章では、2013年度のカリキュラム改革と対比することを目的として、改革直前の2012年度の情報管理學院図書館学専攻のカリキュラムについて概観する。具体的には、まず、中国の大学教育における学問分野について述べる。次に、武漢大学信息管理學院における図書館学専攻の人材育成目標を紹介する。さらに、図書館学専攻のカリキュラム体系及び教育計画について説明する。

4.1 大学教育における学問領域の体系化

中国では、大学教育における学問領域が体系化されており、専攻名称および専攻番号が定められている。例えば、図書館学は、「管理学」(11)の下の「図書情報とアーカイブズ管理」(1105)のもとに「図書館学」(110501)として位置付けられていた。英語名は、Library Scienceである。

中国国家教育部は1998年に「大学本科専攻学科目録(普通高等学校本科專業目録)」を公表した¹。大学本科とは、4年制あるいは5年制の大学を指す。「大学本科専攻学科目録」は、全国の大学本科における専攻の統一的な設置基準を示した目録である。本目録では、大学本科における学問領域を「哲学」(1)、「経済学」(2)、「法学」(3)、「教育学」(4)、「文学」(5)、「歴史学」(6)、「理学」(7)、「工学」(8)、「農学」(9)、「医学」(10)、「管理学」(11)の11の学問分野に分け、各学問分野のもとに大分類を設置し、さらに各大分類のもとに専攻を配置し、体系化した²。

表4-1は、「管理学」(11)学問分野の専攻目録(1998年)である。「管理学」(11)学問分野のもとに、「管理科学と工程」(1101)、「経営管理」(1102)、「農業経済管理」(1103)、「公共管理」(1104)、「図書情報とアーカイブズ管理」(1205)という5つの大分類が設定されている。「図書情報とアーカイブズ管理」(1105)の大分類のもとには、「図書館学」(110501)、「アーカイブズ」(110502)、「情報資源管理」(110503)という3つの専攻が設定されていた。

以上のような「大学本科専攻学科目録」における専攻種類及び編成基準に基づいて、各大学は、院系調整および専攻の開設・編成を行った。武漢大学においても、2012年、この目録にそって、表4-1のように、専攻編成が行われた。(詳しくは、「付録」を参照)。

表 4-1 「管理学」学問分野の専攻目録（1998 年）

学問領域	大分類	専攻
11 管理学	1101 管理科学と工程	
	1102 経営管理	
	1103 農業経済管理	
	1104 公共管理	
	1105 図書情報とアーカイブズ管理	110501 図書館学 110502 アーカイブズ管理 110503 情報資源管理

（「大学本科専攻学科目録：新旧専攻学科対照表（2012年9月）」より作成）

注 図の中の数字はそれぞれ学問分野番号、大分類番号、専攻番号を示す。

4.2 図書館学専攻の人材育成目標

武漢大学信息管理学院図書館学系図書館学専攻の人材育成目標は、武漢大学の「図書館学専攻本科人材育成方案」³によって定められていた。この方案では、図書館学専攻の人材育成目標を「科学の進歩に伴い、技術環境において、図書館の業務に必要な高度な知識と技術を持つ人物を育成すること」とした。高度な情報通信技術、科学に関する知識とコンピューター技術を持つことが目指された。膨大な情報を分析、検索、加工、開発するための能力を持つ人材を育成するとともに、図書館で、情報サービス機関と企業の情報サービス部門に従事することができる人材を育成するとされた。

一方で、武漢大学の他専攻と同様に、マルクス主義・毛沢東思想、及び共産党と政府の政策法令を習得することが目指された。そのうえで、図書館の基礎知識と研究方法を身につけるとされた。また、学生がコンピューター技術やネットワーク技術を通じて、図書、資料、情報を収集し、科学的に管理、加工する能力を身に着けることを目指した。さらに、理論だけではなく、実践的な科目を多数設けており、学生の総合的能力、コミュニケーション能力を育成することを中心とした教育方法になっていた⁴。

4.3 図書館学専攻のカリキュラム

本節では、武漢大学及び信息管理学院における図書館学専攻のカリキュラム体系、図書館学専攻の科目一覧について説明する。

表 4-2 は、武漢大学信息管理学院の図書館学専攻のカリキュラム体系を示したものである。

表 4-2 武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度のカリキュラム体系

科目類別		履修科目	必須 単位数	合計 単位数	備考
教 養 科 目	教養必修科目	必修科目 (全学教養)	26	51	全学共通科目 学院共通科目。5つの領域 (人文科学、社会科学、数 学と自然科学、中国文化と 外国文化、学際研究)に分 けられている
	教養選択科目	選択科目 (学院教養)	25		
専 門 科 目	専門必修科目	必修科目 (専攻教養)	54	82	専攻提供科目
	専門選択科目	選択科目 (専攻教養)	20		
	実践科目	必修科目 (専攻教養)	8		
任 意 科 目		選択科目 (他専攻、他学 院)	7	7	他学院/他専攻提供科目
				140	

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度の教育計画表により作成。)

図書館学専攻の学生は、140 単位を修得する必要があった。教養科目、専門科目、任意科目に大別されており、それぞれ 51 単位、82 単位、7 単位の修得が必要であった。

教養科目は教養必修科目と教養教育科目から構成された。教養必修科目は、全学共通の教養科目であった。教養選択科目は、学院共通の教養科目であった。学院共通の教養科目は、「人

文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」の5つの領域に分かれていた。教養科目は51単位（教養必修科目は26単位、教養教育科目は25単位）取得する必要があった。

専門科目は、専門必修科目、専門選択科目及び実践科目から構成されていた。これらは、専攻が提供する科目である。専門科目は、82単位（専門必修科目は54単位、専門選択科目は20単位、実践科目は8単位）の修得が必要とされた。

任意科目は、他学院および他専攻が提供する科目である。任意科目は、7単位の修得が必要である。

表4-3は、武漢大学信息管理学院の図書館学専攻の科目一覧（2012年度）を示したものであった。

表4-3 武漢大学信息管理学院図書館学専攻の科目一覧（2012年度）

科目種類	科目名	単位数	必要な授業時間	
教養科目	毛沢東思想と中国社会主義理論概論	3	54	
	マルクス主義基本原理概論	3	54	
	中国近代史と現代史概要	3	54	
	思想道徳と法律基礎	3	54	
	世界政治経済と国際関係（修了要件に含めず）	(2)	36	
	国情教育と社会实践（修了要件に含めず）	(2)	36	
	大学英語	9	162	
	体育	4	144	
	軍事理論	1	18	
	教養選択科目	人文科学領域		
		社会科学領域		
		数学と自然科学領域		
		中国文化と外国文化領域		
		学際研究領域		
専門必修科目	情報管理と普及	2	36	
	情報経済論	2	36	
	情報組織化原理	2	36	
	情報組織化実務	2	36	
	情報組織化（演習）	1	36	

科目種類		科目名	単位数	必要な授業時間		
門 科 目	目	情報記述	3	54		
		情報記述（演習）	1	36		
		情報資源建設	3	54		
		情報サービス	3	54		
		情報検索	3	54		
		情報レファレンス	3	54		
		上級プログラミング言語	2	36		
		上級プログラミング言語（演習）	1	36		
		データベース原理と応用	2	54		
		データベース原理と応用（演習）	1	36		
		情報システム設計と応用	3	54		
		知的財産管理	3	54		
		図書館学研究方法	3	54		
		目録学概論	3	54		
		図書館学基礎	3	54		
		デジタル図書館	3	54		
		図書館と情報管理	3	54		
		世界の図書館情報事業	2	36		
		専 門 選 択 科 目		データ構成（JAVA）	3	54
				データ管理	3	54
情報システムのメンテナンス	3			54		
知的管理概論	3			54		
文献学概論	3			54		
文献計量学	3			54		
中国図書と図書館史	3			54		
図書館と情報サービス	2			36		
図書館情報専門英語	3			54		
実 践 科 目		生産労働	なし	2週間		
		卒業実習（インターンシップ）	4	8週間		
		卒業論文	4			
任意科目		他学院の科目など、好みに応じ自由に選択することができる科目。武漢大学				

科目種類	科目名	単位数	必要な授業時間
	信息管理学院における図書館専攻に所属する、すべての学生が最低9単位を修得しなければならない。		
図書館学専攻の学生が、4年間で修得しなければならない単位数：140単位	教養科目：51単位 教養必修科目：26単位 教養選択科目：25単位		
	専門科目：82単位 専門必修科目：54単位 専門選択科目：20単位 実践科目：8単位		
	任意科目：7単位		

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012年度の教育計画表により作成。)

なお、単位の計算方法については以下の通りであり、1コマ当たりの時間は45分とされた⁵。

- ・講義科目：15時間から18時間迄の範囲で所定の時間の授業をもって1単位とする
- ・演習科目：30時間から36時間迄の範囲で所定の時間の授業をもって1単位とする
- ・実習科目：2週間の範囲で所定の時間の授業をもって1単位とする

4.4 まとめ

第4章では、2013年度に改革されたカリキュラムと対比させることを目的として、改革前の2012年度の武漢大学信息管理学院図書館学専攻カリキュラムを概観した。まず、中国の大学教育における学問分野について、次に、信息管理学院図書館学専攻の人材育成目標、さらに同専攻のカリキュラム体系について述べた。

1978年中国共産党第11期中央委員会第3回全体大会では、経済に関する、「経済建設中心」及び「改革開放」という治国方針が発動し、建国から続いていた中央集権化計画経済から市場経済を目指す改革が進められた⁶。

この時期、教養教育においては必修科目の比重を減らし、選択科目を増やした。高等教育は旧ソ連モデルの影響により、専門教育を重視するとともに細分化され、限られた狭い範囲のカリキュラムが設置し続けられた⁷。

また1992年、鄧小平による南巡講話で、社会主義市場経済体制への移行により、教育体制の政策変化が求められた⁸。これにより、大学卒業者は国家による職業を配分から、個人による職業決定という制度変更がなされた⁹。

各大学の人材育成目標も専門人材の育成から多様な知識・能力を有する人材へ育成する方向へ変化した。それに合わせた教養教育の改革重要な課題になった¹⁰。

教育部は1998年、「普通大学の本科専攻学科目録」を公表し、本科大学の専攻を、「哲学」(1)、「経済学」(2)、「法学」(3)、「教育学」(4)、「文学」(5)、「歴史学」(6)、「理学」(7)、「工学」(8)、「農学」(9)、「医学」(10)、「管理学」(11)の11の学問分野に大分類し、各大分類の下に専攻を細分化した。

「図書館学」(110501)専攻は「図書情報とアーカイブズ管理」(1105)の大分類に配置された。「図書情報とアーカイブズ管理(1105)」大分類は「管理学」(11)の学問分野に配置された。

武漢大学信息管理における図書館学専攻の教育目標は、これまで強調されてきた図書館業務に従事する人材の育成から、市場経済体制の発展によって生じた需要に応じる育成方針へと変化していった。

1990年代以降、中国大学教育及びその人材育成に新たな目標が見られるようになった。その原因として、中国における経済改革開放政策の推進に伴い、特に市場経済の体制が次第に確立されてきたことをあげることができる。21世紀に入り、グローバル競争の進展に伴って知識経済が重視される時代となり、中国社会においても知識、情報、技術などが社会経済の発展に及ぼす影響の重要性が認識されるようになった。各大学は図書館学/図書館情報学基礎知識及び技能を備えた人材を育成するだけにとどまらず、情報通信技術を中心とした情報技術をも習得した複合的な人材を育成する方針となっていた。

このような背景に伴い、武漢大学信息管理学院における2012年度の図書館学専攻の人材育成目的は、「科学の進歩のもと、技術環境において、図書館の業務に必要な高度な知識と技術を持つ人物を育成することであった。高度な情報通信技術、科学知識とコンピューター技術を持つことが目指されている。」こととされた。

人材育成目標の変化とともに、カリキュラムも変化している。2012年度の図書館学専攻のカリキュラムでは、情報学に関係が深い「上級プログラミング言語」や「データ構成(JAVA)」などのような内容が多くなったことがわかった。専門必修科目の中に情報学に関する科目は約3分の2を占めていた。また、専門選択科目では、約半分は情報学に関する科目であった。武漢大学信息管理学院における図書館学専攻は、より多い情報学の知識をカリキュラムに導入することを目指していたということも明らかにした。

¹ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 84.

² 中国国家教育部. 「1998年の普通大学の本科専攻学科目録」(「普通高等学校本科專業目録」). <http://www.moe.gov.cn/edoas/website18/84/info1212562471366584.htm>
(参照: 2019. 1. 10).

³ 武漢大学信息管理学院における2012年度の図書館学専攻教育計画表.

-
- ⁴ 武漢大学信息管理学院における 2012 年度の図書館学専攻教育計画表.
- ⁵ 武漢大学信息管理学院のウェブサイト.「学院概況」. <http://sim.whu.edu.cn/xy/xygk/> (参照：2019. 1. 10) .
- ⁶ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 183.
- ⁷ 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 183.
- ⁸ 鄧新培, 小島麗逸. 中国教育の発展と矛盾. 御茶ノ水書房. 2002, p. 70.
- ⁹ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム：3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 122.
- ¹⁰ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム：3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 122.

5. 武漢大学信息管理学院図書館学専攻における 2013 年度のカリキ

ュラム改革

本章では、文献調査とインタビュー調査により、武漢大学信息管理学院図書館学専攻のカリキュラム改革の背景、目的、内容を明らかにする。また、改革前のカリキュラムと比較することによって、その特徴について考察する。

5.1 調査方法

表 5-1 は、インタビュー調査の概要である。武漢大学信息管理学院のカリキュラム改革を担当した教授 3 名を対象として半構造化インタビュー調査を行った。その内訳は、信息管理学院の副院長（当時）1 人、信息管理学院図書館学系の教授（当時）1 人、同副教授（当時）1 人である。また、インターンシップを担当する図書館副館長 1 人も調査対象とした。調査期間は、2017 年 9 月 7 日から 2017 年 9 月 23 日である。調査はすべて筆者が行い、インタビュー調査の内容は、回答者の許可を得て IC レコーダに録音した。

質問項目は、2013 年度のカリキュラム改革の背景と目的、2013 年度のカリキュラム改革の内容、中国の大学における図書館情報学教育の現状と今後の課題である。

表 5-1 インタビュー調査の概要

日付	時間	対象者	場所
2017/9/15 (金)	13:30~14:48	図書館学系に所属する教授	武漢大学信息管理学院 教授の研究室
2017/9/17 (日)	14:00~14:47	図書館学系に所属する副教授	武漢大学信息管理学院 副教授の研究室
2017/9/20 (水)	17:00~19:00	信息管理学院の副院長	武漢大学信息管理学院 副院長の研究室
2017/9/22 (金)	10:30~11:21	武漢大学図書館副館長	武漢大学図書館本館 副館長オフィス

5.2 改革の背景

2013 年度の改革は、国家政策としての教養教育の重視、市場ニーズへの適応、情報通信技術への対応が背景にあったと考えられる。以下、それぞれについて述べる。

2007 年、中国では、大学生の増加に伴う就職率は毎年約 80% 台で推移し、就職は難しい状況であった。2008 年の国際金融危機を背景として、世界の経済は不安定になり、中国でも、景気が減速し、企業の求人数が大幅に減少したことにより、大学卒業者、特に新卒者の就職難が中国の社会問題となった¹。

こうした状況に対応するために、中国国務院は 2009 年、「大学卒業生の就職対策強化の通知」（「關於加強普通高等学校卒業生就業工作的通知」）を公布し、大学生の就業対策を強化すること及び就職率を向上させることを大学に求めた²。この通知では、中国における経済社会、市場経済が求めている人材と、大学が輩出している人材がマッチしていないことも大学生の就職難の 1 つの原因であることを示した。また、大学卒業生の就職難への対策として、大学は経済社会に合わせた人材を育成するために、大学が専門学科を新設する場合、世界の経済変化、国家経済の発展の方向や将来動向を考慮に入れ、市場ニーズに見合った学科設定を設置するべきであると指摘した³。

2010 年に公表された中国教育改革の文献「2010-2020 年国家中長期教育改革と発展計画綱要」（国家中長期教育改革和發展規畫綱要(2010-2020 年)）は、2010 年から 10 年間の中国の教育の改革と発展を計画するものである。「教育強国」ことと、「教育の質を高める」ことを重視した⁴。2013 年 9 月の国連総会上、習近平主席は、「中国は、教育の改革と資金支援

を拡大し、教育は優先的に発展された」⁵ことを示した。

一方、武漢大学信息管理学院の教授へのインタビュー調査では、「デジタル時代において図書館の業務は、新たな技術を採用しなければならなかった。2013年当時、中国の図書館学専攻では、情報通信技術面での科目設置は比較的少なく、技術環境の変化に対応していなかった。武漢大学信息管理学院の情報通信技術に関する科目は少なくないが、これからはさらに多く開設する必要がある。これらの改革の主な理由は学生の就職のためである。」⁶とコメントした。また、「2012年度まで、図書館学専攻は学生募集要項で文系に位置づけられていたが、2013年度からは、文系・理系に位置づけられている。中国の多くの省では、図書館学専攻を文系で募集しており、文系・理系として募集しているところは少ない。また、理系で募集している省は全くない。このことは、図書館学の実情に合っていない。」⁷と指摘した。

5.3 大学教育における学問領域の変化

2012年9月、中国国家教育部によって1998年の「大学本科専攻学科目録」が改定された。この改定では、従来の学問分野である「哲学」(1)、「経済学」(2)、「法学」(3)、「教育学」(4)、「文学」(5)、「歴史学」(6)、「理学」(7)、「工学」(8)、「農学」(9)、「医学」(10)、「管理学」(番号は1998年の11から2012年の12に変更された)の11学問分野に加え、「芸術学」(13)および「軍事学」(11)が加えられ、計13学問分野とされた。学問分野数が増やされた一方、専攻数は1998年の635から、506に削減された。

この改定に伴い、「図書館学専攻」の専攻番号は110501から120501に変更された。表5-2は、新目録における「管理学」(12)学問分野の体系を表したものである。1998年の目録では、「管理学」(11)学問分野のもとに、「管理科学と工程」(1101)、「経営管理」(1102)、「農業経済管理」(1103)、「公共管理」(1104)、「図書情報とアーカイブズ管理」(1105)の5大分類が設定されていたが、これに新たに「物流管理と工程」(1206)、「工業工程」(1207)、「電子ビジネス」(1208)、「旅行管理」(1209)の4大分類が追加された。「図書情報とアーカイブズ管理」大分類においては、1998年の目録と変わらず、「図書館学」「アーカイブズ管理」「情報資源管理」の3つの専攻が設定されている。(詳しくは、「付録1」を参照)。

表 5-2 「管理学」学問分野の専攻目録 (2012 年)

学問領域	大分類	専攻	
12 管理学	1201 管理科学と工程		
	1202 経営管理		
	1203 農業経済管理		
	1204 公共管理		
	1205 図書情報とアーカイブズ管理		120501 図書館学
			120502 アーカイブズ管理
			120503 情報資源管理
	1206 物流管理と工程		
	1207 工業工程		
	1208 電子ビジネス		
	1209 旅行管理		

(「大学本科専攻学科目録：新旧専攻学科対照表 (2012 年 9 月)」より作成)

注 図の中の数字はそれぞれ学問分野番号、大分類番号、専攻番号を示す。

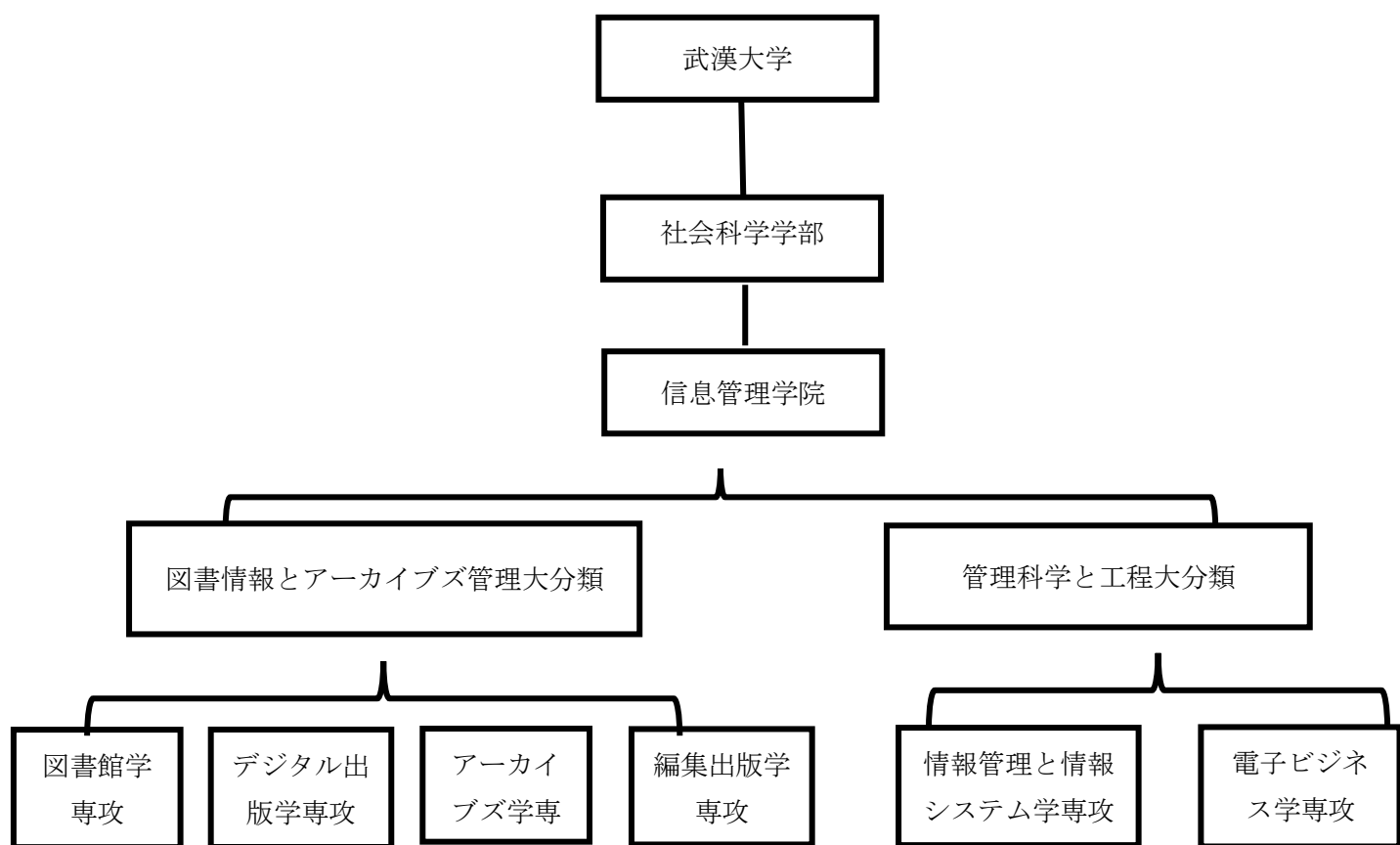


図 5-1 武漢大学信息管理學院学部レベル専攻設置

(出典：武漢大学信息管理學院のウェブサイトより作成)

図 5-1 は、武漢大学信息管理學院は中国の「大学本科専攻学科目録」によって構成された学部レベル専攻設置である。

5.4 武漢大学信息管理學院図書館学専攻 2013 年度のカリキュラム改革

2013 年度のカリキュラム改革では、専攻ごとに人材育成方針が作成された。

武漢大学信息管理學院図書館学系図書館学専攻の人材育成目標は、武漢大学の「図書館学専攻本科人材育成方案」⁸⁾によって、「科学の進歩に伴い、技術環境において、図書館の業務に必要な高度な知識と技術を持つ人物を育成すること」とされている。高度な情報技術、科学知識とコンピュータ技術を持つことが目指されている。膨大な情報を分析、検索、加工、開発するための能力を持つ人材を育成するとともに、図書館で、情報サービス機関と企業の情報サービス部門に従事することができる人材を育成するとされた。

武漢大学の他専攻と同様、マルクス主義・毛沢東思想、及び共産党と政府の政策法令の方針を把握させると共に、図書館学の基礎知識と研究方法を身につけさせる。また、学生がコンピューター技術やネットワーク技術を通じて、図書、資料、情報を収集し、科学的に管理、加工する能力を身に着けることを目指す。さらに、理論だけではなく、実践的な科目を多数設けており、学生の総合的能力、コミュニケーション能力を育成することを中心とした教育方法になっている⁹。

2013年度のカリキュラム改革は、教養科目を中心として行われた。

表 5-3 は、武漢大学信息管理学院の図書館学専攻のカリキュラム体系（2013 年度）を示したものである。

表 5-3 武漢大学信息管理学院の図書館学専攻のカリキュラム体系（2013 年度）

科目類別		履修科目	必須単位数	合計	備考
教養科目	教養必修科目	必修科目 (全学教養)	26	51	全学共通科目
	教養教育科目	選択科目/必修科目 (学院教養)	25		学院共通科目。7つの領域 (交流と作文領域、数学と 推理領域、人文と社会領 域、自然と工程領域、芸術 と審美領域、中国と世界領 域、研究と革新領域)に分 けられている
専門科目	専門必修科目	必修科目	52	80	専攻提供科目
	専門選択科目	選択科目	20		
	実践科目	必修科目	8		
任意科目		選択科目 (他専攻、他学 院)	9	9	他学院/他専攻提供科目
				140	

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2013 年度の教育計画表により作成。)

図書館学専攻の学生は、140 単位を修得する必要がある。教養科目、専門科目、任意科目に大別されており、それぞれ 51 単位、80 単位、9 単位の修得が必要であるとされた。

教養科目は、教養必修科目と教養教育科目から構成された。教養必修科目は、全学共通の教養科目である。教養教育科目は、学院共通の教養科目である。学院共通の教養科目は、「交流と作文領域」、「数学と推理領域」、「人文と社会領域」、「自然と工程領域」、「芸術と審美領域」、「中国と世界領域」、「研究と革新領域」、「学際研究」の 7 つの領域に分かれた。教養科目は 51 単位（教養必修科目は 26 単位、教養教育科目は 25 単位）取得する必要があるとされた。

専門科目は、専門必修科目、専門選択科目及び実践科目から構成された。これらは、専攻が提供する科目である。専門科目は、80 単位（専門必修科目は 52 単位、専門選択科目は 20 単位、実践科目は 8 単位）の修得が必要であるとされた。

任意科目は、他学院および他専攻が提供する科目である。任意科目は、9 単位の修得が必要であるとされた。

表 5-4 は、武漢大学信息管理学院の図書館学専攻の科目一覧（2013 年度）を示したものである。

表 5-4 武漢大学信息管理学院における図書館学専攻の科目一覧（2013 年度改定）

科目種類	科目名	単位数	必要な授業時間
教養必修科目	毛沢東思想と中国社会主義理論概論	3	54
	マルクス主義基本原理概論	3	54
	中国近代史と現代史概要	3	54
	思想道徳と法律基礎	3	54
	世界政治経済と国際関係（修了要件に含めず）	(2)	36
	国情教育と社会実践（修了要件に含めず）	(2)	36
	大学英語	9	162
	体育	4	144
	軍事理論	1	18
	教養教育科目	交流と作文領域	少なくとも 2 単位修得する必要あり
数学と推理領域 (図書館専攻に所属する学生は以下の 4 科目すべてを修得する必要あり)		少なくとも 9 単位修得する必要あり	
統計分析システム SPSS (理論)		2	36
統計分析システム SPSS (演習)		1	36

科目種類	科目名	単位数	必要な授業時間	
	高等数学 F	4	72	
	コンピューターと基礎	2	36	
	人文と社会領域		少なくとも4単位単位修得する必要あり	
	自然と工程領域		少なくとも4単位単位修得する必要あり	
	芸術と審美領域		少なくとも2単位単位修得する必要あり	
	中国と世界領域 (図書館専攻に所属する学生は以下の1科目を修得する必要あり)		少なくとも2単位単位修得する必要あり	
		世界の図書館情報事業	2	36
	研究と革新領域		少なくとも2単位単位修得する必要あり	
専門科目	情報管理と普及	2	36	
	情報経済論	2	36	
	情報組織化原理	2	36	
	情報組織化実務	2	36	
	情報組織化(演習)	1	36	
	情報記述	3	54	
	情報記述(演習)	1	36	
	情報資源建設	3	54	
	情報サービス	3	54	
	情報検索	3	54	
	情報レファレンス	3	54	
	高級プログラミング言語	2	36	
	高級プログラミング言語(演習)	1	36	
	データベース原理と応用	2	54	
	データベース原理と応用(演習)	1	36	
	情報システム設計と応用	3	54	
	知的財産管理	3	54	
図書館学研究方法	3	54		

科目種類	科目名	単位数	必要な授業時間
専 門 選 択 科 目	目録学概論	3	54
	図書館学基礎	3	54
	デジタル図書館	3	54
	図書館と情報管理	3	54
	データ構成 (JAVA)	3	54
	データ管理	3	54
	ウェブサイト設計と開発	3	54
	情報システムのメンテナンス	3	54
	知的管理概論	3	54
	文献学概論	3	54
	文献計量学	3	54
	中国図書と図書館史	3	54
	図書館と情報サービス	2	36
図書館情報専門英語	3	54	
実 践 科 目	生産労働	なし	2 週間
	卒業実習	4	8 週間
	卒業論文	4	
任意科目	他学院の科目など、好みに応じ自由に選択することができる科目。武漢信息管理学院における図書館専攻に所属する、すべての学生が最低9単位を修得しなければならない。		
図書館学専攻の学生が、4年間で修得しなければならない単位数：140単位	教養科目：51単位 教養必修科目：26単位 教養選択科目：25単位		
	専門科目：80単位 専門必修科目：52単位 専門選択科目：20単位 実践科目：8単位		
	任意科目：9単位		

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2013 年度の教育計画表により作成)

表 5-5 は、図書館学専攻における 2012 年度と 2013 度の科目設置の比較を示した。

表 5-5 図書館学専攻における 2012 年度と 2013 年度のカリキュラムの比較

		2012 年度		2013 年度	
教 養 科 目	教養必修科目	単位数	変化なし 26 単位		
	教養選択科目 (2012 年度) / 教養教育科目 (2013 年度)	名称	教養選択科目	教養教育科目	
		単位数	25	25	
		領域	5つの領域 (439 科目) ①人文科学 ②社会科学 ③数学と自然科学 ④中国文化と外国文化 ⑤学際研究	7つの領域 (1002 科目) ① 人文と社会 ② 数学と推理 ③ 自然と工程 ④ 交流と作文 ⑤ 芸術と審美 ⑥ 中国と世界 ⑦ 研究と革新	
		必修科目	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・統計分析システム SPSS(理論) ・統計分析システム SPSS(演習) ・高等数学 F ・コンピューターと基礎 ・世界の図書館情報事業 (2012 年度の専門必修科目から移動。) 	
専 門 科 目	専門必修科目	単位数	54 単位	52 単位	
	専門選択科目	単位数	変化なし 20 単位		
	実践科目	単位数	変化なし 8 単位		
任 意 科 目		単位数	7 単位	9 単位	

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度及び 2013 年度の教育計画表により作成。)

2012年度のカリキュラムと2013年度のカリキュラムと比べると、次のようないくつかの特徴が見られる。

2013年度の改革は教養教育科目を中心に行われた。

武漢大学では、教養教育科目は、2013年度以前の5つの領域（「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」）から2013年度の7つの領域（「交流と作文」、「数学と推理」、「人文と社会」、「自然と工程」、「芸術と審美」、「中国と世界」、「研究と革新領」）に変化した。科目数も2012年度の439から2013年度の1002まで増加した¹⁰。この改革は、学生が幅広い科目を選択できるように広い範囲の科目をより多く用意したものである。

2013年度から、教養教育科目では、指定された科目（必修科目に相当）も設置された。

単位の変化から見て、卒業必修単位数について、4年間に取得が必要とされる単位数は変化せず、計140単位である。2012年度以前と明確に違っているのは専門必修科目の単位数が減少し、全部で54単位から52単位まで少なくなったことである。任意科目の単位数が増加し、これによって、全部で7単位から9単位になった。

また、武漢大学信息管理学院の教授へのインタビュー調査から、「2013年度の改革について、一番の大きな変化は大学生の募集方式である」¹¹とのことであった。具体的には、2012年度より前に武漢大学信息管理院の大学生を募集するときは、専攻ごとに学生募集をしてきた。図書館学専攻を例とすると、図書館学専攻を希望する受験者は必ず「全国統一大学入学試験」に受験する必要がある、武漢大学信息管理院における図書館学専攻の合格の最低点を超えていれば合格とする方式が認めることとなった。学部の教育科目も図書館学専攻や電子ビジネス学専攻、情報管理と情報システム学専攻、アーカイブズ管理学専攻、編集出版学専攻、電子出版学専攻に分け、その授業は1年次から専攻を分け、授業を受けた¹²。

2012年の新たな「大学本科専攻学科目録」公表後、2013年度から、武漢大学信息管理学院は「管理科学と工程」（1201）及び「図書情報とアーカイブズ管理」（1205）の2つの大分類で学生を募集するようになった。

2012年度は専攻を選択するのは入学前であり、学生は自分の専攻への興味が分かる前に選択する必要があった。中国の大学における専攻設置は細かく、12の学問分野、92の大分類、352専攻がある。武漢大学信息管理の教授から、「実は多くの受験生はそれぞれの専攻の違いをきちんと理解していない。そのため、この改革により、学生が入学後、しばらくの間の勉強や生活によって、学生がある程度で自分の興味に基づいて専攻を選択できるようになった。」とコメントした¹³。

武漢大学信息管理学院における図書館学専攻では入学後の1年次は、教養科目を受けることにより、学生は社会の発展状況を知ることができる。そして、学生の専攻選択の自由度を増やし、さらに社会的ニーズに合わせるできるようになった。

武漢大学信息管理学院の副院長は、教養科目の改革は、「専攻する分野の理解を助け、幅広い学際的視野から問題解決することを狙っている。また、必要の基本的な知識、更に総合

的能力、問題を捉える能力を培うことを重視している。学生にとって総合的な知識の構造・基礎・基本を重視している。」¹⁴とコメントした。

5.5 まとめ

本章では、文献調査とインタビュー調査により、武漢大学信息管理学院図書館学専攻のカリキュラム改革の背景、目的、内容を明らかにした。また、改革前の2012年度のカリキュラムと比較することによって、その特徴について考察した。

2008年以來、中国では、大学生の増加に伴う就職は難しい状況であった¹⁵。また、現在中国における市場経済が求めている人材と、大学が輩出している人材がミスマッチしていない¹⁶。大学は経済社会に合わせた人材を育成するために、大学が科目を新設する場合、市場ニーズに見合った学科を設置するべきであることを求めている¹⁷。

このような背景の下、武漢大学信息管理学院図書館学専攻では、カリキュラム改革が行われた。武漢大学では、全学の教養必修科目のほか、学院ごとの教養教育科目も新設された。また、専攻ごとに専門科目が設けられ、専門必修科目と任意選択科目が提供された。2013年度の科目設置は2012年度と比べて、あまり変化していない。変わった部分としては、2013年度は2012年度により専門必修科目の単位数が少し減少する一方で、任意選択科目の単位数が増加したことをあげることができる¹⁸。

武漢大学では、教養教育科目の総単位数の変化はなかったものの、5つの領域（「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」）から7つの領域（「交流と作文」、「数学と推理」、「人文と社会」、「自然と工程」、「芸術と審美」、「中国と世界」、「研究と革新」）に拡大された。また、以前は全て選択科目であったが、現在は指定された科目（必修科目）も加えられた。また、領域毎に2単位以上を習得する必要があるとされた。武漢大学信息管理の教授によると「学生はより広い範囲の科目を選択しなければならないと規定されたことにより、より広い範囲の科目をもつ図書館学専攻が学生の就職に有利になる。」とのことであった¹⁹。

¹ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, p. 173.

² 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成 22 年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p. 173.

³ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成 22 年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p 174.

⁴ 中華人民共和国国家統計局編. 中国年鑑 2011.

⁵ 中華人民共和国国家統計局編. 中国年鑑 2014.

-
- ⁶ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.
- ⁷ 2017年9月22日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.
- ⁸ 武漢大学信息管理学院における2013年度の図書館学専攻教育計画表.
- ⁹ 武漢大学信息管理学院における2013年度の図書館学専攻教育計画表.
- ¹⁰ 肖安東, 漆玲玲, 王贇. 武漢大学通識選択科目の改革と発展. 中国論文ウェブサイト科技論文, 2015, <https://www.xzbu.com/8/view-6879228.htm>. (参照: 2019-1-10) .
- ¹¹ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.
- ¹² 2017年9月20日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.
- ¹³ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.
- ¹⁴ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で副院長に対するインタビュー調査より.
- ¹⁵ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成22年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p. 171-175.
- ¹⁶ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成22年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p 175.
- ¹⁷ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成22年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p 175.
- ¹⁸ 武漢大学信息管理学院における2013年度の図書館学専攻教育計画表.
- ¹⁹ 2017年9月17日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で副教授に対するインタビュー調査より.

6. 武漢大学信息管理學院図書館学専攻における 2018 年度のカリキュラム改革

本章では、文献調査及びインタビュー調査の結果から、武漢大学信息管理學院図書館学専攻における 2018 年度のカリキュラムの改革について検討する。第 1 節は 2018 年度の改革背景について述べた。第 2 節は 2018 年度の武漢大学信息管理學院のカリキュラム体系および、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」における図書館学専攻のカリキュラムを中心に、2018 年度の図書館情報学教育のカリキュラム改革について検討する。

6.1 改革の背景

2018 年度のカリキュラム改革の背景には、政府の世界一流大学育成政策と、2016 年の武漢大学信息管理學院による「図書情報とアーカイブズ管理大分類の人材育成方針」¹の公布を挙げることができる。

まず、世界一流大学育成政策について述べる。2015 年 10 月、中国國務院が発表した「世界一流大学・一流学科建設の統一的推進のための全体案」では、2020 年までに一部の大学及び学科が世界一流レベルを到達する、2030 年まで多くの大学が世界一流クラスに入り、若干の大学世界トップクラスに入ることを目標と定めた。中国では、2050 年までに、高等教育強国を作る目標を掲げている²。具体的な内容は、(1)一流の素質を備えた教授陣を育成する、(2)優秀な創造性のある人材を育成する、(3)科学研究レベルを引き上げる、(4)伝統的な文化を伝承しながら革新する、(5)成果転化の推進に尽力する、といった改革を求めている³。

2013 年度のカリキュラム改革では、専攻ごとに人材育成方針が作成されたが、2018 年度の改革では、専攻の上位組織である大分類ごとに人材育成方針が作成された。武漢大学信息管理學院の学部レベルの教育組織は、図 5-1 に示した通りである。図書館学専攻は、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」に属する。

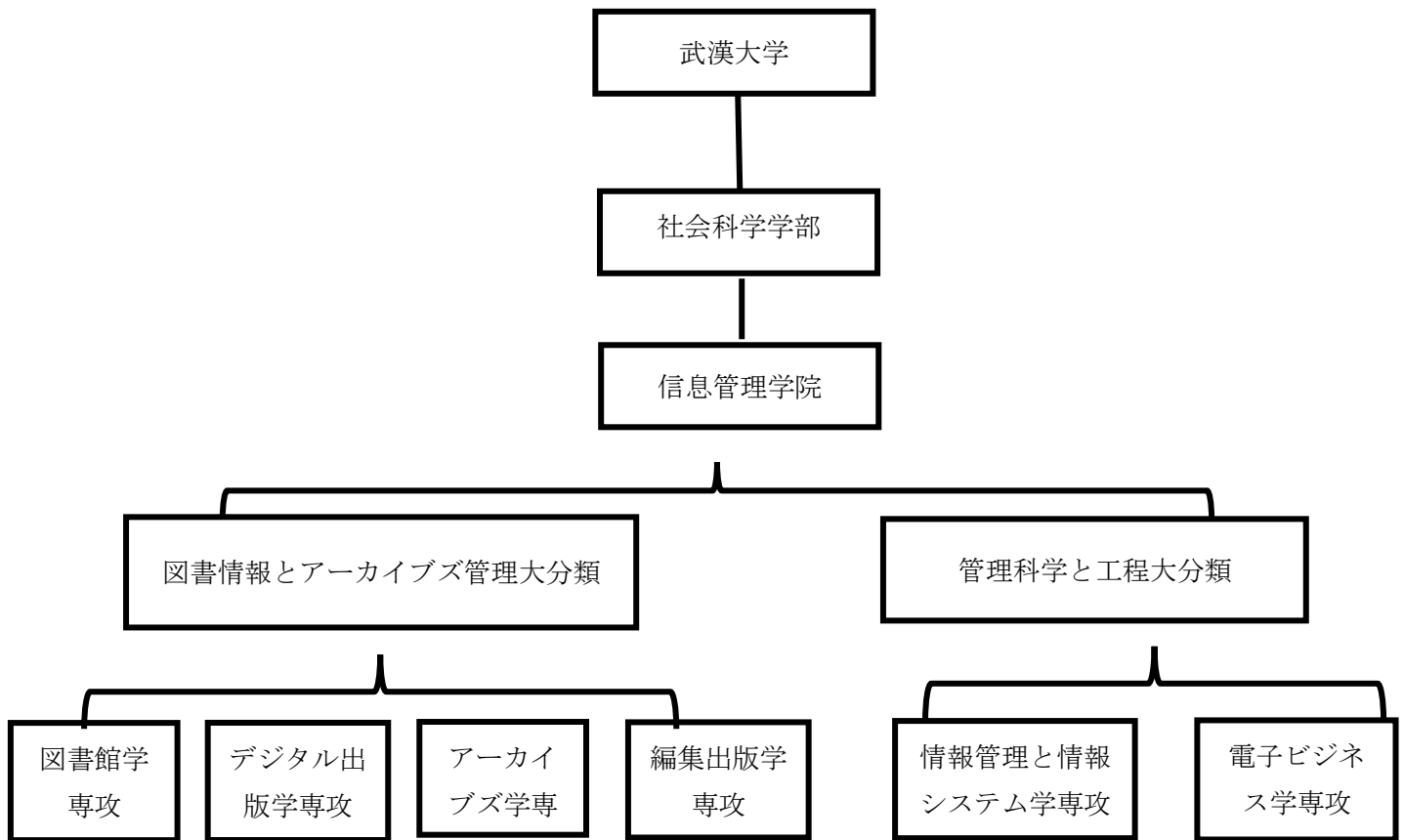


図 5-1 武漢大学信息管理學院学部レベル専攻設置

(出典：武漢大学信息管理學院のウェブサイトより作成)

2016年に、武漢大学信息管理學院は、「図書情報とアーカイブズ管理大分類の人材育成方針」⁴を公表した。この方針では、下記のように述べられている。

- (1) 情報管理の理論とスキルを身に付け、情報技術を修得し、また、技術を使って情報を検索し、分析し、評価し、伝播し、管理し、開発する能力を備えている人材を育成する。
- (2) 国家機関や各企業の情報部門、図書館や資料館などの専門的な情報サービス機構、または出版機構、新聞機構と文化宣伝機構において情報管理とサービスを提供できる人材を育成する。
- (3) 経済や社会の発展に合わせて強い能力を備えている複合型人才を育成する。
- (4) 学生がマルクス主義基本原理を把握し、広い知識面と合理的な知識構造を持ち、わが国の文化、教育、図書館、アーカイブまたは出版事業に関わる方針、政策と法律に精通することを支援する。また、学生が図書館学、アーカイブ管理学と出版学の基礎的な知識と理論を把握し、外国語文献を読んで分析する技能、文字表現能力やコミュニケーション能力を持ち、

コンピューターとインターネットを用いて情報の収集、組織、検索、分析、評価、伝達、保存及び開発を行うことができるように育成する。さらに、学生たちがそれらの技能を図書とアーカイブ管理、政務情報管理、出版物の発行と経営販売、製品のデザイン、文化宣伝、教育や科学研究などに応用できるように育成する。

武漢大学信息管理学院の教授である呉は、「2018年度の大分類の教育科目の編成では、マルクス主義基本原理を把握し、広い知識面と合理的な知識構造を持ち、わが国の文化、教育、科学・図書館、アーカイブズまたは出版事業に関わる方針、政策と法律を把握することが要求された。」と述べた⁵。

6.2 武漢大学信息管理学院のカリキュラム改革

本節では、2018年度の武漢大学信息管理学院のカリキュラム体系および、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」における図書館学専攻のカリキュラムを中心に、2018年度の図書館情報学教育のカリキュラム改革について検討する。

6.2.1 武漢大学信息管理学院のカリキュラム体系

2018年度のカリキュラム体系は、表6-1のとおりである。カリキュラム体系は、公共基礎科目、教養教育科目、専門教育科目の3つに分けられる。以下、それぞれの科目について述べる。

(1) 公共基礎科目

公共基礎科目は、すべて必修科目である。全学共通科目と学院共通科目から構成されている。全学共通の公共基礎科目は、政治思想理論、体育、軍事理論、大学英語、高等数学に関する科目であり、8科目21単位から構成されている。学院共通の公共基礎科目は、高等数学、コンピューター基礎と応用、国語に関する科目であり、各学院が専攻ごとに履修すべき単位数を決める。図書館学専攻については、3科目12単位と定められている。よって、図書館学専攻では、11科目33単位を履修する必要がある。

(2) 教養教育科目

教養選択科目は全学共通科目であり、必修科目と選択科目がある。必修科目は、2科目4単位であり、人文社会学領域の基礎と自然科学領域の基礎を学ぶ科目となっている。但し、これらの科目は、修了要件には含まれない。

選択科目は、4つの領域に分けられている。「中国文化と世界文化」、「科学精神と生命配慮」、「社会科学と現代社会」、「芸術体験と審美鑑賞」である。それぞれの領域には、コア教養科目と一般教養科目から構成されている。コア教養科目は計60科目、一般教養科目は計

600 科目提供されている。4つの領域から少なくとも3領域から、コア教養科目1科目2単位、一般教養科目1科目2単位、計6科目12単位を履修する必要がある。なお、「中国文化と世界文化」領域と「芸術体験と審美鑑賞」領域は必修である。文理融合の観点から、文系の学生は「科学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会科学と現代社会」から選択する。

例えば、図書館学専攻の学生は、下記のように履修する。

- ・「中国文化と世界文化」から、コア教養科目1科目2単位＋一般教養科目1科目2単位
- ・「科学精神と生命配慮」から、コア教養科目1科目2単位＋一般教養科目1科目2単位
- ・「芸術体験と審美鑑賞」から、コア教養科目1科目2単位＋一般教養科目1科目2単位

(3) 専門教育科目

専門教育科目は、専門基礎科目と専門科目で構成される。以下、それぞれの科目について述べる。

① 専門基礎科目

専門基礎科目は、各学院の大分類によって設定されている。例えば、図書館学専攻の専門基礎科目は、信息管理学院「専門基礎科目」は、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」によって設定されている。基礎的専門科目であり、必修科目は19科目41単位、選択科目は科目26単位、計67単位を履修する必要がある。対象は、1年生から4年生である。

② 専門科目

専門科目は、高度な学術知識について学ぶ科目である。必修科目は12科目24単位、選択科目は2科目4単位を履修する必要がある。対象は、2年生から4年生であり、必修科目と選択科目がある。

以上のように、武漢大学信息管理学院のカリキュラムは、公共基礎科目、教養教育科目、専門教育科目から構成され、計140単位を履修する必要がある。

表 6-1 武漢大学信息管理學院の 2018 年度のカリキュラム体系

科目類別		履修科目	必須単位数	合計	備考
公共基礎科目	政治思想理論 体育 軍事理論 大学英語 高等数学など	必修科目 (全学共通)	33	33	
	高等数学、コンピューター基礎と応用、国語などについては、各学院が専攻履修すべき単位数を決める。	必修科目 (学院共通)			
教養教育科目	必修教養科目 (指定された科目=必修科目)	必修科目 (学院共通)	(4)	(4)	人文社会学領域の基礎と自然科学領域の基礎、2つの科目 修了要件に含めない
	選択教養科目 (選択科目)	選択科目 (学院共通)	12	12	4つの領域を含む、学生は少なくとも3つ以上の領域に跨り、少なくとも12単位を修得する。 全学の学生は「中国文化と世界文化」と「芸術体験と審美鑑賞」領域の科目が履修必要となる。 文系の学生は「科学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会科学と現代社会」から選択する。
専門教育科目	専門基礎科目 各学院の大分類によって設定されている。	専門基礎必修科目	41	95	大分類下の全ての専攻の学生は履修必要となる。
		専門基礎選択科目	26		
	専門科目 (専攻ごと)	専門必修科目	24		
		専門選択科目	4		
				140	

(出典：武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

学生へのインタビュー調査では、「2018年度以前は、専門科目が少なかったため、大学教育の質の低下が心配された。2018年度より専門科目が増えたため、教養教育と専門教育のバランスがよくなった。」⁶とのことであった。

また、教授へのインタビュー調査からは、「2018年度以前のカリキュラムでは、専門科目の中、専門選択科目は3科目6単位の中で2科目4単位を履修必須となる。専門選択科目を選択する余地があまりなかった」とのコメントが得られた

6.2.2 図書館学専攻のカリキュラム

表6-2は、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」における図書館学専攻の2018年度のカリキュラムである。図書館学専攻の学生は、140単位を修得する必要がある。公共基礎科目、教養教育科目、専門教育科目に大別されており、それぞれ33単位、12単位、95単位の修得が必要である。以下、公共基礎科目、教養教育科目、専門教育科目それぞれについてみていく。

(1) 公共基礎科目 (33単位)

11科目33単位（「毛沢東思想と中国社会主義理論概論」「マルクス主義基本原理概論」「思想道德と法律基礎」「中国近代史と現代史概要」「形勢と政策」「体育」「軍事理論」）である。但し、「国情教育と社会実践」については、修了要件には含まれない。毛沢東思想や中国社会主義、マルクス主義など、中国国家をささえる主義思想のほか、法律や政策、軍事理論に関する科目が含まれている。

信息管理学院の共通科目は、3科目12単位（「大学英語」「コンピューターの基礎と応用」「高等数学」）である。なお、武漢大学の学生は武漢大学英語水平試験を受ける必要があるが、この試験で優秀な成績を修めた学生は大学英語の一部履修免除が認められる。

(2) 教養教育科目 (12単位)

教養選択科目は全学共通科目であり、必修科目と選択科目がある。必修科目は、2科目4単位であり、人文社会学領域の基礎と自然科学領域の基礎を学ぶ科目となっている。但し、これらの科目は、修了要件には含まれない。

教養選択科目は全学共通科目であり、4つの領域に分けられている。「中国文化と世界文化」、「科学精神と生命配慮」、「社会科学と現代社会」、「芸術体験と審美鑑賞」である。それぞれの領域には、コア教養科目と一般教養科目から構成されている。コア教養科目は計60科目、一般教養科目は計600科目提供されている。4つの領域から少なくとも3領域から、コア教養科目1科目2単位、一般教養科目1科目2単位、計6科目12単位を履修する必要がある。なお、「中国文化と世界文化」領域と「芸術体験と審美鑑賞」領域は必修である。文理融合の観点から、文系の学生は「科学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会

科学と現代社会」から選択する。

例えば、図書館学専攻の学生は、下記のように履修する。

- ・「中国文化と世界文化」から、コア教養科目 1 科目 2 単位＋一般教養科目 1 科目 2 単位
- ・「科学精神と生命配慮」から、コア教養科目 1 科目 2 単位＋一般教養科目 1 科目 2 単位
- ・「芸術体験と審美鑑賞」から、コア教養科目 1 科目 2 単位＋一般教養科目 1 科目 2 単位

(3) 専門教育科目 (95 単位)

専門教育科目は、専門基礎科目と専門科目で構成される。以下、図書館学専攻のそれぞれの科目について述べる。

①専門基礎科目

先に述べたように、専門基礎科目は各学院の大分類によって設定されている。図書館学専攻は、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」に属する。同大分類の必修科目は 19 科目 41 単位（「データベース原理と応用」「データベース原理と応用（演習）」「情報システム分析と設計」「ウェブサイト設計と開発」「ウェブサイト設計と開発（演習）」「知的財産管理」「文献と出版の歴史」「社会調査と統計分析」「社会調査と統計分析（演習）」「卒業実習」「卒業論文・設計」）である。

一方、選択科目は、41 単位（「新生ゼミナール」「管理学基礎」「情報政策と法律」「情報経済学」「社会科学研究方法」「確率論と統計」「情報計量学」「社会インターネット分析」「Python 言語」「マルチメディア技術と応用」「データ構成」「情報可視化」「データ開発」「データ分析と管理」「文献編纂」「文献学概論」「専攻英語」「異文化コミュニケーションと管理」「ターゲット分析」「インターネット広告」「デジタル資源保存」「意味ネットワーク基礎」「文化遺産改革起業」「プロジェクト管理」）提供されている。うち 26 単位以上の修得が必要である。「新生ゼミナール」は、新生に向けて開設された少人数クラスの科目である。この科目は、「教師と学生との交流を重視する科目である。新生が視野を広くし、勉強への積極性を高めることに有利である。」とのことである⁸。

また、武漢大学信息管理学院の教授へのインタビュー調査では、「武漢大学は世界の一流大学に向けて、強い创新能力と実践能力を持つ人材を育成している。」⁹と述べられた。学生の創業・创新能力を育成するために、2018 年度に創新創業科目を新しく創設した。創新創業科目は文化遺産創新創業科目（2 単位）とプロジェクト管理科目（3 単位）を含む。少なくとも 3 単位取得必要あり、プロジェクト管理科目（3 単位）は必修科目となる。

②専門科目

専門科目は、各専攻で設定される。図書館学専攻では必修科目として、12 科目 24 単位（「図書館学基礎」「情報組織化」「情報組織化（演習）」「情報記述」「情報記述（演習）」「目

録学」「情報資源建設」「図書館と情報中心管理」「情報サービスとユーザー」「情報分析と政策諮問」「図書館情報研究方法」「デジタル図書館原理」)を修得する必要がある。

選択科目は、3科目6単位(「情報製品とサービス運営」「グローバル図書館情報事業」「知的管理」)が提供されているが、うち4単位以上の修得が必要である。

表 6-2 図書館情報とアーカイブズ管理大分類における図書館学専攻のカリキュラム (2018年度)

科目種類	科目名		
		総単位	総授業時間
公共基礎科目	毛沢東思想と中国社会主義理論概論	4+2	
	マルクス主義基本原理概論	3	
	思想道徳と法律基礎	3	
	中国近代史と現代史概要	2	
	形勢と政策	2	
	国情教育と社会实践(修了要件に入れない)	2	
	体育	4	
	軍事理論	1	
	大学英語	6	
	コンピューターの基礎と応用	2	
	高等数学	4	
教養教育科目	必修科目 2科目4単位 (修了要件に含めない)	人文社会学領域の基礎と自然科学領域の基礎の2つの科目	
	選択科目 12単位	4つの領域(「中国文化と世界文化」、「芸術体験と審美鑑賞」、「科学精神と生命配慮」、「社会科学と現代社会」)を含む、学生は少なくとも3つ以上の領域を跨り、少なくとも12単位を取る。 全学の学生は「中国文化と世界文化」及び「芸術体験と審美鑑賞」領域中の科目を履修しなければならない。文系の学生は「科学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会科学と現代	

			社会」から選択する。 コア教養科目は計 60 科目、一般教養科目は計 600 科目提供されている。		
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目 57 単 位	専 門 基 礎 必 修 科 目 19 科 目 41 単 位	情報管理学基礎	2	32
			情報組織化原理	2	32
			情報レファレンス	3	48
			メディア学基礎	2	32
			新メディア概論	2	32
			コンピューターとインターネット	2	32
			高級プログラミング言語	2	32
			高級プログラミング言語 (演習)	1	24
			データベース原理と応用	2	32
			データベース原理と応用 (演習)	1	24
			情報システム分析と設計	3	48
			ウェブサイト設計と開発	2	32
			ウェブサイト設計と開発 (演習)	1	24
			知的財産管理	2	32
			文献と出版の歴史	3	48
			社会調査と統計分析	2	32
			社会調査と統計分析 (演習)	1	24
			卒業実習	4	8 週
			卒業論文・設計	4	8 週
		専 門 基 礎 選 択 科 目 26 単 位	新入生ゼミナール	1	16
			管理学基礎	3	48
			情報政策と法律	3	48
			情報経済学	2	32
			社会科学研究方法	2	32
			確率論と統計	2	32
			情報計量学	3	48
			社会インターネット分析	3	48
Python 言語	3		48		
マルチメディア技術と応用	3		48		
データ構成	3		48		
情報可視化	3	48			
データ開発	3	48			

			データ分析と管理	3	48
			文献編纂	2	32
			文献学概論	3	48
			専攻英語	2	48
			異文化コミュニケーションと管理	2	32
			ターゲット分析	3	48
			インターネット広告	2	32
			デジタル資源保存	3	48
			意味ネットワーク基礎	3	48
			文化遺産改革起業	2	32
			プロジェクト管理	3	48
	専門科目 28	専門 必修科目 12科目 24単位	図書館学基礎	3	48
			情報組織化	1	16
			情報組織化（演習）	1	24
			情報記述	2	32
			情報記述（演習）	1	24
			目録学	3	48
			情報資源建設	3	48
			図書館と情報中心管理	2	32
			情報サービスとユーザー	2	32
			情報分析と政策諮問	2	32
			図書館情報研究方法	2	32
			デジタル図書館原理	2	32
		専門 選択科目 2科目 4単位	情報製品とサービス運営	2	32
		グローバル図書情報事業	2	32	
		知的管理	2	32	
図書館学専攻の学生が、修得しなければならない単位数： 140単位	公共基礎科目：33単位				
	教養教育科目：12単位				
	専門教育科目：95単位 専門基礎科目：67単位 専門科目：28単位				

(出典：武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

注：「総」は全てを意味する。

図書館学専攻の修了要件は、以下の通りである。

(1) 在学年数

中国高等教育法により、大学本科教育科目は4年制と定められている。但し、医学部など、専攻によっては5年のところがある。また学業成績が極めて優秀な学生の飛び級制度を認めている（3年間所定単位をすべて取得すれば卒業可能だが、大多数は4年卒業となる。）が、大学によって異なる。基本的には卒業に4年間かかる。

(2) 最終試験

必ず卒業テストに合格しなければならない。卒業論文を提出すると、最後に卒業試験が行われる。卒業試験とは、卒業論文審査と最終発表により行われる。

(3) 卒業論文

中国において、「学士」の学位は、普通大学の本科教育科目を修了し、卒業論文を合格した学生に授与される。専攻によっては卒業論文に替えて、作品制作により審査することが認められる。

武漢大学信息管理学院における図書館学専攻では、卒業論文を合格した学生に「管理学」の学位を授与する。

(4) インターンシップ

インターンシップには授業の一環として、学生は会社でインターンシップをし、半年程度就業体験をしなければならない。社会人への準備段階として大学で学んだ知識を実践する場として、官公庁、会社などの現場での就業体験を行う実習科目である。

武漢大学信息管理学院における図書館学専攻もインターンシップは授業の一環として実施されている。インターンシップは、大学4年生の休みを利用して行っている。各企業のウェブサイトなどを通じて自己応募して参加し、或いは大学経由で応募し参加する。インターンシップ評価報告書を大学に提出が必要となり、インターンシップ終了後、単位が付与される。

6.3 まとめ

本章では、文献調査とインタビュー調査により、武漢大学信息管理学院図書館学専攻の2018年度のカリキュラム改革の背景、目的、内容を明らかにした。また、2013年度のカリキュラムと比較することによって、その特徴について検討した。

2018年度のカリキュラム改革は、政府の世界一流大学育成政策と、2016年の武漢大学信息管理学院による「図書情報とアーカイブズ管理大分類の人材育成方針」により行われていた。

改革の特徴について、まずは武漢大学信息管理学院における2018年度の学生募集方式は、2013年度と同じ大分類で学生を募集している、図書館学専攻を例とすると、受験者は「全国统一大学入学試験」を受験し、武漢大学信息管理院の「図書情報とアーカイブズ管理大分

類」の合格の最低点を超えていれば合格とする方式が認められた。入学後、1年次から専攻を分けずに、授業を受ける¹⁰。1年間の専門基礎知識を受けて、2年次から専攻ごとに授業を受ける。これによって、入学後の勉強や生活によって、学生がある程度、自分の興味に基づいて専攻を選択できるようになった。

2018年度には、教養教育および専門教育の改革が行われた。

(1)教養教育について、武漢大学信息管理学院では、教養教育科目は、2013年度の7領域（「交流と作文領域」、「数学と推理領域」、「人文と社会領域」、「自然と工程領域」、「芸術と審美領域」、「中国と世界領域」、「研究と革新領域」）から、2018年度の4つの領域（「中国文化と世界文化領域」、「芸術体験と審美鑑賞領域」、「科学精神と生命配慮領域」、「科学と現代社会領域」）となり、学生は各領域から2単位以上、合計12単位以上取得することとされた。

教養教育科目の単位数は大きく減少し、2013年度の25単位から、2018年度には12単位になった。

(2)専門教育に関する科目は、2013年度の80単位から、2018年度には95単位まで増やされた。

武漢大学信息管理学院の教授へのインタビュー調査から、「武漢大学信息管理学院における図書情報とアーカイブズ管理大分類で、専門教育と教養教育を融合させ、知識社会に適応できる人材の育成を目標とする。これは武漢大学信息管理学院の人材育成目標ではなく、中国における図書館情報学教育の目標である。武漢大学の図書館情報学教育は中国の各大学のモデルにしたいと考え、2018年度の改革を行った。この改革を通じて、中国における図書館情報学教育の発展に貢献したい。これは改革の理由の1つになった。」と述べた¹¹。

¹ 武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28.

² 海外学術動向ポータルサイト. 「3つの部門・委員会責任者が世界一流大学・一流学科建設リストを解説」. 日本学術振興会. 2017.

³ 人民網日本語版. 「国務院、世界一流大学・一流学科建設を目指す「全体案」発表」. <http://j.people.com.cn/n/2015/1106/c94475-8972738.html>. (参照: 2019. 1. 10.) .

⁴ 武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28.

⁵ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.

⁶ 2017年9月17日に武漢大学信息管理学院図書館学専攻の学生に対するインタビュー調査より.

⁷ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

⁸ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.

⁹ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.

¹⁰ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.

¹¹ 2017年9月17日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.

7. 考察

本章では、武漢大学信息管理学院における 2013 年度および 2018 年度のカリキュラムの特徴を明らかにすることを目的として、改革前の 2012 年度、2013 年度および 2018 年度のカリキュラムの比較を行い、考察を行う。第 1 節では教養教育の比較を、第 2 節では専門教育の比較を行う。

7.1 武漢大学信息管理学院における教養教育の改革について

本節では、武漢大学信息管理学院におけるカリキュラム改革のうち、教養教育に焦点をあてて述べる。

表 7-1 は武漢大学信息管理学院における 2012 年度、2013 年度、2018 年度の教養科目のカリキュラムの比較を表した表である。

表 7-1 武漢大学信息管理学院における図書館学専攻教養教育科目 2012 年度、2013 年度及び 2018 年度カリキュラム改革の特徴の比較

		2012 年度	2013 年度	2018 年度
教養科目	教養必修科目 (2012 年度、2013 年度) / 公共基礎科目 (2018 年度)	名称 教養必修科目	教養必修科目	公共基礎科目
		単位数 26 単位	26 単位	33 単位
	教養選択科目 (2012 年度) / 教養教育科目 (2013 年度、2018 年度)	名称 教養選択科目	教養教育科目	教養教育科目
		単位数 25 単位	25 単位	12 単位
		領域 5つの領域 (439 科目) ①人文科学 ②社会科学 ③数学と自然科学 ④中国文化と外国文化 ⑤学際研究	7つの領域 (1002 科目) ① 人文と社会 ② 数学と推理 ③ 自然と工程 ④ 交流と作文 ⑤ 芸術と審美 ⑥ 中国と世界 ⑦ 研究と革新	必修科目は、2 科目 4 単位であり、人文社会学領域の基礎と自然科学領域の基礎を学ぶ科目となっている。但し、これらの科目は、修了要件には含まれない。 選択科目は 4 つの領域を含む。コア科目も設置された。 (660 科目：60 のコア科目 + 600 一般科目) ① 中国文化と世界文明 ② 科学精神と生命配慮 ③ 社会科学と現代社会 ④ 芸術体験と審美鑑賞 全学の学生は少なくとも 3 つ以上の領域を跨り、少なくとも 12 単位を取る。全学の学生は「中国文化と世界文化」と「芸術体験と審美鑑賞」領域の科目を取得必要あり。 文理融合の観点から、文系の学生は「科学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会科学と現代社会」から選択する。

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度、2013 年度の教育計画表、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

中国では 1990 年以降、学生募集数を拡大してきた。1998 年度に学生募集数は約 100 万人、2002 年度に約 300 万人、2010 年度には 600 万人を超えるまでになった¹。学生数の増加に伴い、各大学では教育の質向上のために、カリキュラムの改革が行われた。

中国の大学における国家レベルの教養教育カリキュラムは、社会主義に関する政治科目、体育及び英語の 3 種類で構成されている²。1990 年から IT に関する科目も設置されるようになった³。

(1) まず学生に、社会主義及び中国共産党の指導を基づいて、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想と鄧小平理論などの基本原理を理解させる。中国の教養必修科目の設置について、政治科目には、「マルクス主義基本原理概論」、「世界政治経済と国際関係」のような政治以外に、中国の代表的な政治思想、「毛沢東思想と中国社会主義理論概論」、「中国近代史と現代史概要」や「思想道德と法律基礎」が設置されている⁴。

また、体育と軍事に関する一定の基本知識を有し、必要な軍事訓練を受けなければならない。各大学は、「軍事訓練」を必修科目として、「軍事理論」の科目を設けなければならない。これは 1990 年の国家教育部による「教育機関における体育の展開に関する条例」によるものである。この条例では、普通高等教育機関において 1、2 年次向けに体育科目が必修とされている⁵。

(2) 学生に、人文科学と自然科学双方の基本知識を身に着けさせ、当該専攻の基礎知識を理解し、基本的な問題を解決する能力を備えさせる。中国の教養選択科目の設置は、「文系の学生を対象にして適切に自然科学科目を勉強させる。理系の学生に人文社会科目を勉強させる。」という考え方によって、様々な領域を設置して、各領域に多様な科目を提供している⁶。

武漢大学信息管理学院の教養科目についても、これらの要求の元、カリキュラムが組まれている。教養科目は学生の全面的資質の向上を図ることを重視しており、その目的は、必要基本的な知識、総合的能力を培うことが目標である。下記に、2012 年度、2013 年度、2018 年度の教養教育に関するカリキュラムについてまとめる。

(1) 教養必修科目 (2012・2013 年度) / 公共基礎科目 (2018 年度)

2012 年度の教養必修科目、2013 年度の教養必修科目、2018 年度の公共基礎科目は、ほぼ同じである。これらの科目では、政治・道徳に関する科目が約 5 割を占めている。政治科目には、「マルクス主義基本原理概論」、「世界政治経済と国際関係」以外に、中国の代表的な政治思想、「毛沢東思想と中国社会主義理論概論」、「中国近代史と現代史概要」や「思想道德と法律基礎」が設置されている

このような思想政治科目は、中国政府から規定された指示により、必修の教養教育カリキ

キュラムの科目単位数・科目設置は、その指示に拘束されており、学生が自由に選択することはできない⁷。楊がこれらの科目を「社会主義国家の大学が資本主義国家の大学と区別できるような象徴的な重要な科目」⁸と指摘しているように、中国政府がいかに政治教育を重視しているかがわかる。このような政治意識の強い科目の必修化は、中国の教養教育の特徴であると言える。

(2) 教養選択科目 (2012 年度) / 教養教育科目 (2013 年度・2018 年度)

改革開放以降、武漢大学における教養選択科目はいくども変更されてきた。

1999 年、中国国家国務院は「中共中央・国務院が教育改革を深化し、全面的に素質（資質）教育を推進する教育改革に関する決定（中共中央国務院關於深化教育改革，全面推進素質教育的決定）」を公布した⁹。この決定以降、大学レベル科目では、「幅広い」という要素は設置基準の要求の 1 つとなり、各大学では教養教育の改革が重要であることが示された。これに従って武漢大学では、2004 年から、教養選択科目として、「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」という 5 領域（全 439 科目）を設定した。

この 5 領域は 2012 年度まで継続され、2013 年度のカリキュラム改革で、「交流と作文領域」、「数学と推理領域」、「人文と社会領域」、「自然と工程領域」、「芸術と審美領域」、「中国と世界領域」、「研究と革新領域」、「学際研究」という 7 領域（全 1,002 科目）に変更された。

2013 年度のカリキュラム改革において、教養教育科目は多様化し、その内容も多岐にわたるものになった。この改革は、学生の資質を高めることを狙いとしており、より広い範囲の科目をより多く提供するようになった。各領域に指定された科目設置されたことによって、学生はより広い領域から多様な科目を選択できるようになった。しかし一方で、25 単位中、11 単位は指定された科目であり、学生が自由に選択できるのは 14 単位であった。また、教養教育科目として提供される 1,002 科目は多すぎるため、教育の質を担保できなかったという指摘があった。武漢大学信息管理学院の教授のインタビュー調査では、「武漢大学の教養選択科目数の規模は大きく、担当教員は足りなかった。2013 年度のカリキュラム改革で、1,002 科目が提供されることとなったが、一部の教授は忙しいため、授業を博士課程の学生に任せっぱなしの状況も多くみられた。さらに、一部の授業は難しすぎるため、学生の参加度が低いものとなっていた。」というコメントがあった¹⁰。

また、武漢大学にはシラバスがないので、学生は適切に履修する科目を選択することが難しい状況にあったという。武漢大学信息管理学院の学生への補足インタビューでは、「シラバスがないので、科目を選択する時は先輩の意見を聞いて決めていた。」¹¹とのことであった。

これらの理由から、7 領域 1,002 科目が提供されていた教養選択科目は、2018 年度のカリキュラム改革で、4 領域（「中国文化と世界文化領域」、「芸術体験と審美鑑賞領域」、「科

学精神と生命配慮領域」、「社会科学と現代社会領域」)に減らされ、科目数も660まで減少した。

2018年度のカリキュラム改革以降の教養教育科目は、教養教育必修科目および教養教育選択科目で構成されている。教養教育必修科目は全学共通科目であり、2科目4単位を履修しなければならない。人文社会学領域の基礎と自然科学領域の基礎を学ぶ科目となっている。但し、これらの科目は、修了要件には含まれない。この科目は、学生が専攻を選択する際の手助けになることを目的としている。また、シラバスがないため教養選択科目を選択することが困難な学生の支援にもなっている。

教養教育選択科目は、4つの領域に分けられている。それぞれの領域には、コア教養科目と一般教養科目から構成されている。コア教養科目は計60科目、一般教養科目は計600科目提供されている。なお、「中国文化と世界文化」領域と「芸術体験と審美鑑賞」領域は必修である。幅広い学びの観点から、文系の学生は「科学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会科学と現代社会」から選択する。文系の学生には理系の知識を身に付けさせ、理系の学生には人文教育を受けさせる。

さらに、武漢大学信息管理学院の教養科目単位数も変化してきた。表7-2および図7-1は2012年度、2013年度、2018年度の武漢大学信息管理学院における図書館学専攻の教養必修科目と教養選択科目の卒業必須単位数の変化である。

表7-2および図7-1が示すように、教養必修科目は、2018年度以前の26単位から2018年度以降の33単位まで増えている。一方、教養選択科目の単位数は大きく減少し、25単位から12単位まで減少した。

表7-2 武漢大学信息管理学院の図書館学専攻教養必修と選択科目卒業必須単位数の変化

	2012年度単位数	2013年度単位数	2018年度単位数
教養必修科目	26	26	33
教養選択科目	25	25	12
合計	51	51	45

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻2012年度、2013年度の教育計画表、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

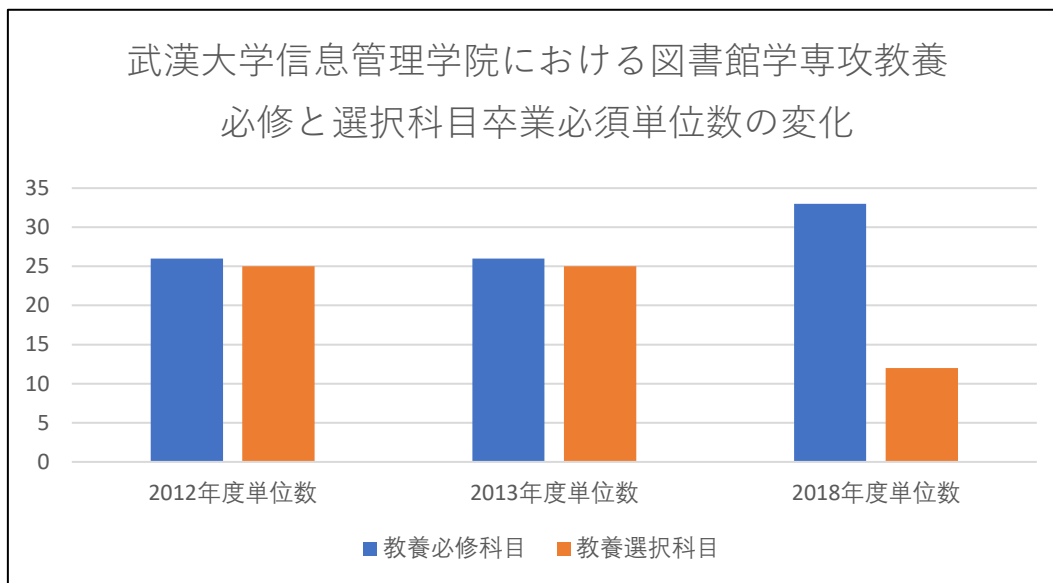


図 7-1 武漢大学信息管理学院における図書館学専攻教養必修と選択科目卒業必須単位数の変化

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度、2013 年度の教育計画表、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

武漢大学信息管理学院の教授へのインタビュー調査では、「教養選択科目の必須単位数の 25 単位から 12 単位まで減少させ、専門教育科目は 80 単位から 95 単位まで増やさせるようになる。その理由は、専門教育の質保証である。」¹²とのことであった。

中国の高等教育の質保証は、政府によって主導されている。1990 年代から、市場経済への移行、高等教育機関における運営自主権の拡大に伴い、展開されてきた。2010 年に公表された中国教育改革の文献「2010-2020 年国家中長期教育改革と発展計画綱要」(国家中長期教育改革和発展計画綱要(2010-2020 年))は、2010 年から 10 年間の中国の教育の改革と発展を計画するものである。「教育強国」ことと、「教育の質を高める」ことを重視した¹³。2013 年 9 月の国連総会上、習近平主席は、「中国は、教育の改革と資金支援を拡大し、教育は優先的に発展された」¹⁴ことを示した。

高等教育の質を維持・向上をさせるために、大学の設置基準の設定や、専門家を組織して教学評価の実施、カリキュラム編成基準の制定、学位授与権の審査などさまざまな政策を実施されている¹⁵。

武漢大学信息管理学院の教授へのインタビュー調査では、「大学は、研究活動を重視しなければならない。そのためには、学生の研究能力を育成することが重要となる。また、現在図書館学専攻の学生は大学を卒業してから、大学院に進学し、特に海外先進国に留学することが多い。中国では、研究能力不足であるので、専門教育を重視しなければならない」¹⁶というコメントがあった。

7.2 武漢大学信息管理学院における専門教育の改革について

本節では、武漢大学信息管理学院におけるカリキュラム改革のうち、専門教育に焦点をあてて述べる。2018 年度のカリキュラム改革では、教養教育だけでなく、専門教育も大きく変化した。

表 7-3 は武漢大学信息管理学院における 2012 年度、2013 年度、2018 年度の専門科目の比較である。

表 7-3 武漢大学信息管理学院における図書館学専攻の専門科目の比較

専門科目 (2012年度、2013年度)/専門教育科目(2018年度)	2012年度			2013年度			2018年度			
	名称			名称			名称			
	82単位			80単位			95単位			
	専門必修科目	専門選択科目	実践科目	専門必修科目	専門選択科目	実践科目	専門基礎科目 67単位 (新設) 「図書情報とアーカイブズ管理大分類」によって設定されている。		専門科目 28単位 専攻によって設定されている。	
	5単位	20単位	8単位 卒業実習(4単位)及び卒業論文・設計(4単位)を含む。	52単位	20単位	8単位 卒業実習(4単位)及び卒業論文・設計(4単位)を含む。	専門基礎必修科目 41単位	専門基礎選択科目 26単位	専門必修科目 24単位	専門選択科目 4単位

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012年度、2013年度、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

2018年度のカリキュラム改革で、専門基礎科目が新しく設置された。専門基礎科目は、各学院の大分類によって設定されている。図書館学専攻の専門基礎科目は、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」によって設定されている。基礎的専門科目であり、対象は、1年生から4年生であるが、ほとんどは1年生を対象とした科目である。2年次で専攻に配属される前の段階で、さまざまな学問領域から幅広く学習し、専門知識を広く開拓することに狙い

があるとされてる。

専門基礎科目は学生が、図書館情報学に関する基礎知識や、プログラミング演習などの演習科目を通して、基礎的スキルを学ぶために設置された。これによって、学生たちは大分類のもとで、自分の興味やニーズに合わせて専攻を選択できるようになる。

武漢大学信息管理学院における 2018 年度の学生募集方式は、2013 年度の改革以降と変わらず、大分類での募集であった。2013 年度の改革以前は、学生は入学時に専攻に配属されていたため、1 年次からさまざまな専門科目が設置されていた。基本的には 1 年次から、教養教育と専門教育の有機的結合を目指したのである。2013 年度からは分かれずに、授業を受けるようになった¹⁷。

2018 年度の改革で、信息管理学院の 1 年次は、専門基礎科目を受けることにより、社会の発展状況を知ることができる。専攻選択の自由度を増やし、さらに社会的ニーズに合わせることが狙いとなっている。

また、武漢大学信息管理学院の教授へのインタビュー調査では、「武漢大学は世界の一流大学に向けて、強い创新能力と実践能力を持つ人材を育成している。」¹⁸と述べられた。学生の創業・创新能力を育成するために、2018 年度創新創業科目を新しく創設した。創新創業科目は文化遺産創新創業科目（2 単位）とプロジェクト管理科目（3 単位）を含む。少なくとも 3 単位取得必要あり、プロジェクト管理科目（3 単位）は必修科目となる。

表 7-4 から表 7-6 まではそれぞれ、2012 年度、2013 年度、2018 年度の武漢大学信息管理学院図書館学専攻専門科目の履修単位数である。図 7-2 は、これらと比較したグラフである。専門科目の履修しなければならない単位数は、2013 年度のカリキュラム改革では 80 単位とされたが、2018 年度の改革では、95 単位に増えた。また、2018 年度の任意科目は必修であるが、修了要件に含まれないようになった。

表 7-4 武漢大学信息管理学院図書館学専攻履修必須専門科目の単位数（2012 年度）

	2012 年度
専門必修科目	54
専門選択科目	20
実践科目	8
合計	82

（出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度、2013 年度の教育計画表、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成）

表 7-5 武漢大学信息管理学院図書館学専攻履修必須専門科目の単位数 (2013 年度)

	2013 年度
専門必修科目	52
専門選択科目	20
実践科目	8
合計	80

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度、2013 年度の教育計画表、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

表 7-6 武漢大学信息管理学院図書館学専攻履修必須専門科目の単位数 (2018 年度)

	2018 年度	
専門基礎科目	必修科目	41
	選択科目	26
専門科目	必修科目	24
	選択科目	4
合計		95

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度、2013 年度の教育計画表、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

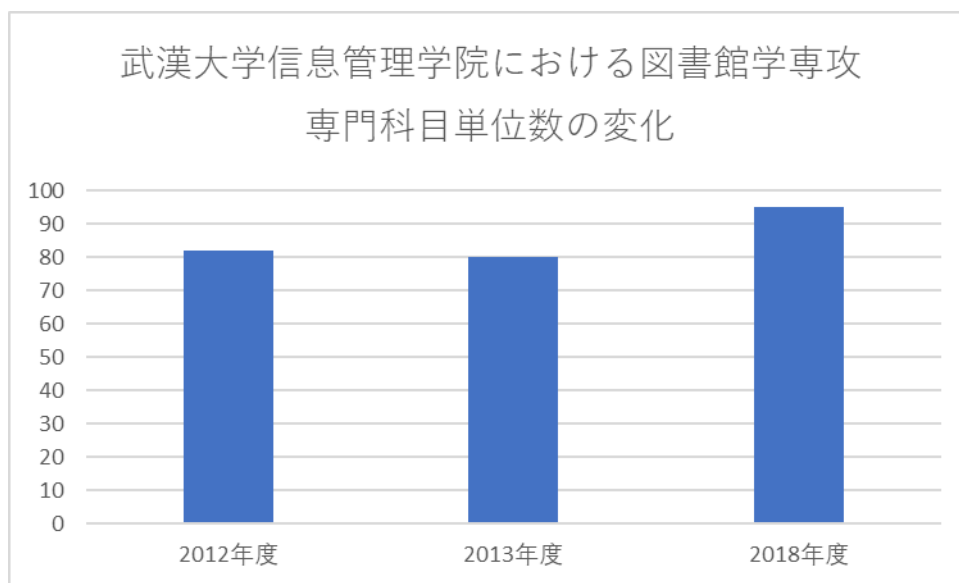


図 7-2 武漢大学信息管理学院における図書館学専攻専門科目単位数の変化

(出典：武漢大学信息管理学院図書館学専攻 2012 年度、2013 年度の教育計画表、及び武漢大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28. により作成)

また、2013年度の改革によって、専門科目の必修科目単位数の比重が大きいため、選択科目を選択する余地が少ないという状況に置かれていることがインタビュー調査で明らかになった。実際のところ、必修科目必須単位数と選択科目必須単位数は2013年度の改革では、おおよそ3対1であったが、2018年度の改革では、おおよそ2.1対1となった。これによって、学生が科目を選択する余地が多くなったといえる。

また、2018年度の改革では、履修しなければならない専門選択科目必修単位数は20単位から30単位まで増やされた。開設選択科目数も増えた。これによって、学生の科目の選択幅が広がり、選択科目も多様化した。

武漢大学信息管理学院の学生への補足インタビューから「2018年度より前の改革は専門教育を減量することで大学教育の質が低下させられる可能性が心配された。2018年度、専門科目の増量について、教養教育と専門教育のバランスが十分となった。」¹⁹とのことであった。

武漢大学信息管理学院2018年度のカリキュラム改革では、専門科目必修単位数は7割弱を占め、教養科目必修単位数より専門科目の方が多くなることが明らかになった。したがって、武漢大学は教養教育理念の重要性が喚起されつつあるものの、実は相変わらず専門教育に重点を置いていることが分かる。

7.3 まとめ

本章では、武漢大学信息管理学院における文献調査とインタビュー調査の結果により、2013年度および2018年度のカリキュラムの改革の成果と課題を分析する。

教養教育の改革では、教養必修科目は、2013年度も2018年度も政治・道徳の科目が概ね5割以上を占めている。政治科目には、「マルクス主義基本原理概論」のような政治以外に、中国の代表的な政治思想、「毛沢東思想と中国社会主義理論概論」、「中国近代史と現代史概要」が設置されている。このカリキュラムの構成から見て、政治性が高いことがわかる。このような思想政治科目は、中国政府が規定した指示に基づくものであり、科目単位数・科目設置は、拘束されている。このような政治意識の強い科目は、中国の教養教育の特徴である。

教養選択科目を見ると、2012年度の5領域から、学生がもっと幅広い領域の科目を選択できることを目標として、2013年度の7領域から、さらに質保証のために2018年度の4領域へと変更された。

2013年度のカリキュラム改革において、教養教育科目は多様化し、その内容も多岐にわたるものになった。この改革は、学生の資質を高めることを狙いとしており、より広い範囲の科目をより多く提供するようになった。これによって、学生はより広い領域から多様な科目を選択できるようになった。

2018年度のカリキュラム改革以降の教養教育科目は、教養教育科目の中で、教養教育必修科目および及び教養教育選択科目で構成されている。教養教育必修科目は全学共通科目

であり学生が専攻を選択する際の手助けになることを目的としている。学生は自分の興味で専攻を選択できるように、また、シラバスがないため教養選択科目を選択することが困難な学生の支援にもなっている。

教養教育選択科目は、4つの領域に分けられている。幅広い学びの観点から、文系の学生は「科学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会科学と現代社会」から選択する。

2018年度のカリキュラム改革で、専門基礎科目が新しく設置された。2年次で専攻に配属される前の段階で、さまざまな学問領域から幅広く学習し、専門知識を広く開拓することに狙いがあるとされている。これによって、学生たちは大分類のもとで、自分の興味やニーズに合わせて専攻を選択できるようになる。

武漢大学信息管理学院における2018年度の学生募集方式は、2013年度の改革以降と変わらず、大分類での募集であった。2013年度の改革以前は、学生は入学時に専攻に配属されていたため、1年次からさまざまな専門科目が設置されていた。2013年度には分かれずに、授業を受けるようになった²⁰。2018年度の改革で、信息管理学院の1年次は、専門基礎科目を受けることにより、社会の発展状況を知ることができる。そして、専攻選択の自由度を増やし、さらに社会的ニーズに合わせることに狙いとなっている。

また、武漢大学信息管理学院2018年度のカリキュラム改革から見て、専門科目必須単位数は割合が7割弱であり、教養科目必須単位数より専門科目の方が多くなったことが明らかになった。したがって、武漢大学は教養教育理念の重要性が喚起されつつあるものの、実は変わらず専門教育に重点を置いていることが明らかになった。

¹ 中国高等教育学会編。“改革開放30年中国高等教育発展経験專題研究1978～2008. 教育科学出版社. 2008, p. 65-67.

² 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 123.

³ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 124.

⁴ 史媛媛.“大学カリキュラム改革:「通識教育」カリキュラム改革を中心に”. 中国における高等教育の変貌と動向:2005年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 55-56.

⁵ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 124.

⁶ 史媛媛.“大学カリキュラム改革:「通識教育」カリキュラム改革を中心に”. 中国における高等教育の変貌と動向:2005年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 54-55.

⁷ 史媛媛.“大学カリキュラム改革-「通識教育」カリキュラム改革を中心に-”. 中国にお

る高等教育の変貌と動向-2005 年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 65.

⁸ 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 124.

⁹ 中華人民共和国教育部ウェブサイト. 「中共中央国務院關於深化教育改革, 全面推進素質教育的決定」. 1999.

http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2478.htm

1. (参照: 2019. 1. 7) .

¹⁰ 2017 年 9 月 15 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

¹¹ 2017 年 9 月 15 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

¹² 2017 年 9 月 15 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

¹³ 中華人民共和国国家統計局編. 中国年鑑 2011.

¹⁴ 中華人民共和国国家統計局編. 中国年鑑 2014.

¹⁵ 南部広孝. “中国における高等教育の質保証と 学習成果アセスメント”. 大学論集. 京都大学高等教育研究開発センター編. 2015, p. 165.

¹⁶ 2017 年 9 月 15 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

¹⁷ 2017 年 9 月 20 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

¹⁸ 2017 年 9 月 15 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

¹⁹ 2017 年 9 月 22 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

²⁰ 2017 年 9 月 20 日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の主任に対するインタビュー調査より.

第8章 おわりに

本研究では、中国の経済の政策と高等教育の政策の変遷を踏まえ、現在中国の大学における図書館情報学教育の発展と現状を明らかにした。特に、武漢大学信息管理学院における図書館学専攻の実態を検討した。

8.1 本研究のまとめ

まず、第1章では、本研究の研究背景と目的、先行研究、研究方法及び論文の構成について述べた。

第2章では、1920年から、中国の経済の政策と高等教育の政策の変遷を踏まえ、中国の大学における教養教育及び専門教育としての図書館情報学教育の発展を概観した。特に、武漢大学信息管理学院を事例として、その歴史の変遷を明らかにした。

教養教育の変遷について、中国では、1898年中国における初の大学が設立された。あの時の「通識教育」（教養教育）は海外の先進国の高等教育政策のモデルとなった国に大きな影響を受けている。1992年に市場経済の導入とともに高等教育の改革は旧ソ連モデルからアメリカ型へ転換してきた。特に、2001年にWTOに参加して以来、カリキュラムの国際化が重要になり、国際人材育成が重視されている。これによって、欧米型の教養教育モデルを模倣した「通識教育」（教養教育）改革が進められた。

専門教育として図書館情報学教育について、1913年から、ウッド女史は図書館学専科学校の設立に着手し始めた。ウッド女史は、1920年3月に中国における最初の武昌文華大学に図書科を開設した¹。このような状態のもとで、1949年まで中国の図書館学教育には大きな進歩が見られなかった。

1949年、中国の成立後、国家経済の発展に必要な専門人材を育成するため、中国政府は経済体系に相応な高等教育改革に着手した。1952年に大学や学部の調整（院系調整）が全国的に行なわれたため、翌1953年、文華図専は武漢大学に編入され、武漢大学図書館学専修科となった。1956年には名称を武漢大学図書館学系に変更し、4年制を設置した。

1966年から1976年まで、十数年にわたる政治運動と社会的混乱によって、中国の経済、教育は大きな打撃を受け、かなり遅れてしまった。

「全国統一大学入学試験」は、文化大革命のため一時廃止されたが、1977年に再開されている。また、1980年代に入り、「改革開放」政策の影響を受け、大学の自主権が拡大された。この背景の下、図書館情報学教育は発展してきた。1984年4月、武漢大学が図書館学系を図書館情報学院に改称し、武漢大学は図書館学専攻以外に情報学専攻が設置されるようになった。

さらに、1990年代に経済の発展により、高等教育に必要な専門人材を育成するという目標を達成するため、1995年に211工程、1998年に985工程が始動した。これらの工程の中

では、学生の科学的な思考方法や総合的能力、均衡的な知識の類推能力の育成が重要な課題になった。その後、情報技術の発展により、大学はコンピューターに関する科目を設置した。また、多数の大学では就職のため、学生の社会適応能力の育成に重点を置くようになった。インターネット時代における情報化の進展に伴って、中国の図書館情報学教育は社会の変化を反映した方向に進んでいる。2001年、武漢大学図書館情報学院は信息管理学院に改名した。武漢大学は図書館情報学教育の改革を深化させ、図書館学専攻のほかに、出版学専攻、電子ビジネス学専攻その他の新たな専攻を創設している。武漢大学信息管理学院の教授である呉によると、「武漢大学信息管理学院の名称は、より広い意味をもつ信息管理に改めた。社会的に広く知られている「情報」を使ったほうが学生就職に有利になる」ということであった²。

第3章では、文献調査によって、武漢大学の概要、武漢大学信息管理学院の略史、及び武漢大学信息管理学院の現状について概観した。

武漢大学は、中国の湖北省武漢市に位置する国立大学である。1893年に張之洞により創設された自強学堂は武漢大学の前身であり、中国で最も歴史がある大学の1つである。

武漢大学信息管理院の前身は1929年設立した武昌文華図書館学専科学校であった。

1953年、文華図専は武漢大学に編入され、武漢大学図書館学専修科となった。1955年に2年制は3年制に変更され、さらにその翌1956年には名称を武漢大学図書館学系に変更し、4年制となった。

1980年代以降、大学や学生数の規模の拡大の下で、1984年4月、武漢大学は図書館学系を図書館情報学院に改称し、図書館学系、図書発行学系、アーカイブズ学系、科学情報学系という4つの学系を設置した。図書館学系には図書館学専攻、図書発行学系には図書発行学専攻、アーカイブズ学系にはアーカイブズ学専攻、科学情報学系には科学情報学専攻を設置した³。

1990年代以降、インターネット時代における情報化の進展に伴って、図書館情報学教育機関の名称変更およびそれに伴う教育改革が開始した。最初に図書館情報学部名の名称変更を進めたのは、北京大学であり、1992年に、学部の名称を図書館情報学系から信息管理系に改称した。次いで2001年、武漢大学図書館情報学院は信息管理学院に改名された。武漢大学は図書館情報学教育の改革を深化させ、図書館学専攻のほかに、出版学専攻、電子ビジネス学専攻その他の新たな専攻を増設した。

2019年1月、信息管理学院には、図書館学系、情報管理科学系、アーカイブと政務情報管理学系、出版科学系、電子ビジネス学系、保密管理学系という6つの「系」が設置された。図書館学系には図書館学専攻、情報管理科学系には情報管理と情報システム学専攻、アーカイブと政務情報管理学系にはアーカイブズ学専攻、出版科学系には編集出版学専攻、電子ビジネス学系に電子ビジネス学専攻、編集出版学専攻が設置された。

第4章では、2013年度のカリキュラム改革と対比することを目的として、改革直前の2012年度の情報管理学院図書館学専攻のカリキュラムについて概観した。具体的には、まず、中

国の大学教育における学問分野について述べた。次に武漢大学信息管理学院における図書館学専攻の人材育成目標を説明した。さらに、図書館学専攻のカリキュラム体系及び教育計画について説明した。

21 世紀に入り、グローバル競争の進展に伴って知識経済が重視される時代となり、中国において知識、情報、技術などが社会経済の発展に及ぼす影響の重要性が認識されるようになった。

この背景に伴い、武漢大学信息管理における 2012 年度の図書館学専攻の人材育成目的は、「科学の進歩に伴い、技術環境において、図書館の業務に必要な高度な知識と技術を持つ人物を育成することである。高度な情報通信技術、科学知識とコンピューター技術を持つことが目指されている。」こととされている。

人材育成目標の変化とともに、カリキュラムも変化した。2012 年度の科目設置を見ると、図書館学専攻は情報学と関わる「上級プログラミング言語」や「データ構成 (JAVA)」などのような内容が多いことが明らかになった。専門必修科目の中に情報学に関する科目は約 3 分の 2 を占めている。また、専門選択科目では、約半分は情報学に関する科目であった。武漢大学信息管理学院における図書館学専攻はより多い情報学の知識をカリキュラムに導入することを目指した。

武漢大学信息管理学院図書館学専攻の 2012 年度のカリキュラムは教養科目、専門科目、自由科目の 3 つから構成されていた。

①教養科目：教養必修科目は毛沢東思想と中国社会主義理論概論、体育、外国語、世界政治経済と国際関係等である。

教養選択科目は、幅広く深い知識の構築である。各学科の学問体系の基盤と関係を理解するための科目である。「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」、5 領域であった。

これらの科目は 1 年次から 4 年次に配置され、学生は自分の状況によって履修できる。

②専門科目では、学生にしっかり専門知識及び実践能力を培うことを重視している。その中には、専門必修科目、専門選択科目、実践科目（卒業論文とインターンシップ）が含まれている。これらの科目は 1 年次から設置されている。

③学生の多様なニーズを考慮して教養教育と専門教育以外の科目の他に、自由科目を設け、自由に選択履修できることとなった。他学院の科目など、好みに応じ自由に選択することができる科目である。これらの科目は 1 年次から 4 年次に設置され、学生は自分の状況によって履修できる。

学生が入学後すぐに専攻を区分されて育成されるので、1 年次から、様々な専門科目が設置されていた。基本的には 1 年次から、教養教育と専門教育の有機的結合を目指したものである。

第 5 章では、文献調査とインタビュー調査により、武漢大学信息管理学院図書館学専攻のカリキュラム改革の背景、目的、内容を明らかにした。また、改革前のカリキュラムと比較

することによって、その特徴について考察した。

2008 年以来、中国では、大学生の増加に伴う就職は難しい状況であった⁴。また、現在中国における市場経済が求めている人材と、大学が輩出している人材がミスマッチをおこした⁵。中国政府幅広い学び大学は経済社会に合わせた人材を育成するために、大学が科目を新設する場合、市場ニーズに見合った学科を設置するべきであることを求めた⁶。

武漢大学信息管理院における図書館学専攻では、2013 年度の科目は教養科目、専門科目、自由科目の 3 つから構成されていた。

①教養科目では、教養必修科目の設置は全て変わらなかった。専攻を選択する前段階で様々な学問領域から幅広く学習することを示しており、知識を広く開拓することに狙いがある。

また、2012 年度の 5 領域（「人文科学」、「社会科学」、「数学と自然科学」、「中国文化と外国文化」、「学際研究」）から 2013 年度の 7 領域（「交流と作文領域」、「数学と推理領域」、「人文と社会領域」、「自然と工程領域」、「芸術と審美領域」、「中国と世界領域」、「研究と革新領域」）に変化した。この改革は学生の資質を高めることを狙いとしており、より広い範囲の科目をより多く用意するように試みている。教養選択科目は 1 年次から 3 年次に設置されている。

教養教育の履修は重視されており、その履修も多岐にわたっていた。カリキュラムの編成は教養の向上を基礎とし、能力育成を中心とした教育理念によって行われた。

一方、専門科目の単位数は減少し、82 単位から 80 単位となった。

また、任意科目の単位数は 7 単位から 9 単位まで多くなった。

2013 年度の改革は、一番大きな変化したことは大分類による学生募集方式である。図書館学専攻を例とすると、受験者は「全国統一大学入学試験」を受験し、武漢大学信息管理院における「図書情報とアーカイブズ管理大分類」の合格の最低点を超えていれば合格とする方式が認められた。入学後、その授業は 1 年次から専攻を分けずに、授業を受けた⁷。1 年間、専門基礎知識を受けて、2 年次から選択を分け、授業を受けた。これによって、学生が入学後、しばらくの勉強や生活によって、学生がある程度で自分の興味に基づいて専攻を選択できるようになった。

第 6 章では、文献調査及びインタビュー調査の結果から、武漢大学信息管理学院図書館学専攻における 2018 年度のカリキュラムの改革について検討した。まずは 2018 年度の改革背景について説明した。次に、2018 年度の武漢大学信息管理学院のカリキュラム体系および、「図書情報とアーカイブズ管理大分類」における図書館学専攻のカリキュラムを中心に、2018 年度の図書館情報学教育のカリキュラム改革について検討した。

2018 年度のカリキュラム改革は、政府の世界一流大学育成政策と、2016 年の武漢大学信息管理学院による「図書情報とアーカイブズ管理大分類の人材育成方針」により行われた。

2018 年度図書館学専攻の科目設置は以下の 3 つの部分から構成される。(1) 公共基礎科目 (2) 教養教育科目 (3) 専門教育科目である。専門教育科目は専門基礎科目と専門科目か

ら成る。

図書館学専攻では、卒業必修単位数について、4年間に取得が必要とされる単位数は変化せず、計140単位である。一方、専門科目の単位数が大きく増加し、80単位から95単位となった。

一方、教養選択科目の単位数は大きく減少し、25単位から12単位となった。選択科目は、4領域に分けられており、「中国文化と世界文化」、「科学精神と生命配慮」、「社会科学と現代社会」、「芸術体験と審美鑑賞」で、660科目が提供されている。2013年度の7つ領域1,002科目が提供されていた教養選択科目は、2018年度、4つの領域（「中国文化と世界文化領域」、「芸術体験と審美鑑賞領域」、「科学精神と生命配慮領域」、「社会科学と現代社会領域」）に減らされ、科目数も660まで減少した。

また、人文社会学領域の基礎と自然科学領域の基礎を学ぶ科目も設置された。この科目は、学生が専攻を選択する際の手助けになることを目的としている。シラバスがないため教養選択科目を選択することが困難な学生の支援にもなっている。

2018年度のカリキュラム改革で、専門基礎科目が新しく設置された。2年次で専攻に配属される前の段階で、さまざまな学問領域から幅広く学習し、専門知識を広く開拓することに狙いがあるとされている。これによって、学生たちは大分類のもとで、自分の興味やニーズに合わせて専攻を選択できるようになる。

第7章では、武漢大学における文献調査とインタビュー調査の結果により、武漢大学信息管理学院における2013年度および2018年度のカリキュラムの改革の原因と成果について考察を行った。また、武漢大学における図書館情報学教育の実態と課題を明らかにし、現状の問題点を指摘した。

教養教育では、教養必修科目が、2013年度も2018年度も政治・道徳の科目が概ね5割以上を占めている。このような思想政治科目は、中国政府は規定された指示を受け、科目単位数・科目設置は、拘束されている。このような政治意識の強い科目は、中国の教養教育の特徴であると言える。

教養選択科目では、2012年度の5領域から、学生がより幅広い領域の科目を選択できることを目標として、2013年度の7領域へ増えたものの、質保証のために2018年度の4領域に変更された。

2013年度のカリキュラム改革において、学生の資質を高めることを狙いとしており、より広い範囲の科目をより多く提供するようになった。これによって、学生はより広い領域から多様な科目を選択できるようになった。

2018年度のカリキュラム改革以降、教養教育科目が新設され、教養教育必修科目は全学共通科目であり学生が専攻を選択する際の手助けになることを目的としている。学生は自分の興味で専攻を選択できるように、また、シラバスがないため教養選択科目を選択することが困難な学生の支援にもなっている。

教養教育選択科目は、4領域に分けられている。幅広い学びの観点から、文系の学生は「科

学精神と生命配慮」領域から、理系の学生は「社会科学と現代社会」から選択する。

専門科目中で、専門基礎科目が新しく設置された。2年次で専攻に配属される前の段階で、さまざまな学問領域から幅広く学習し、専門知識を広く開拓することに狙いがあるとされている。これによって、学生たちは大分類のもとで、自分の興味やニーズに合わせて専攻を選択できるようになる。

武漢大学信息管理学院における2018年度の学生募集方式は、2013年度の改革以降と変わらず、大分類での募集であった。学生の専攻選択の自由度を増やし、さらに社会的ニーズに合わせることに狙いとなっている。

また、武漢大学信息管理学院2018年度のカリキュラム改革を見ると、専門科目必須単位数の割合が7割弱であり、教養科目必須単位数より専門科目の方が多くなることが明らかになった。したがって、武漢大学は教養教育理念の重要性が喚起されつつあるものの、実は相変わらず専門教育に重点を置いていることが明らかになった。

8.2 課題

1990年代前半には、すべての大学において専門教育の見直しを中心に様々な改革が試みられた。これに対して、1990年代以降、中国の人材育成モデルは変わっており、旧ソ連モデルに基づいたカリキュラムの設置と内容が大幅に変化してきた。もっとも変化したのは、教養科目の拡大、社会の変化に合わせて能力・素質の育成を重視するようになったことである。1950年からの専門職（細分された職種）に対応するわけではなく、中国国家教育部は発表した「大学本科専攻学科目録（「普通高等学校本科專業目録」）」によって、学問分野に応じる科目が設置されるようになった⁸。

改革開放以降、中国における国家政策によって、多くの大学では、特色ある人材育成モデルやカリキュラムが作られてきた。中国の社会の変化に向けての大学教育モデルを模索していると考えられる。

科目設置から見て、全国の大学も政治・道徳の科目が大きな割合を占めており、政治性が高いことが分かった。このような思想政治科目は、中国政府が規定する指示を受け、科目単位数・科目設置は、拘束されている。このような政治意識の強い科目は、中国の教養教育の特徴である。学生は自由に選択できない。また、これらの授業は広いクラスで大講義の方式であり、学生はこれらの授業に関心を持たず、学習効果は良くない状況になった。

また、中国の大学における図書館情報学教育では、専門教育と教養教育との関係について、限られた履修期間において、教養教育がどこまで重視されなければいけないのか、専門教育と教養教育とのバランスをどのように設計するのか大きな課題である。卒業生の就職のため、情報通信技術に関連する専門科目を増加させる傾向にある。その一方で、図書館情報学の伝統的科目が大幅に減らされているため、図書館の人材育成という観点から問題があると考えられる。

-
- ¹ 丁健. 近代中国における図書館人材育成機関の設立-武昌文華図書館学専科学校を中心に-. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 2012. vol. 52, p. 267.
- ² 2017年9月17日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の副主任に対するインタビュー調査より.
- ³ 武漢大学信息管理学院編. 求实奮進共譜新篇 :从文華図専到武漢大学信息管理学院(1920～2010). 第一版, 武漢大学出版社, 2010, p. 11.
- ⁴ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成 22 年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p 174.
- ⁵ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成 22 年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p 175.
- ⁶ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成 22 年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p 175.
- ⁷ 2017年9月15日に武漢大学信息管理学院の教授の研究室で図書館学系の教授に対するインタビュー調査より.
- ⁸ 科学技術振興機構中国総合研究センター. 平成 22 年版中国の高等教育の現状と動向. 2010, p. 84.

謝辞

本論文を作成するにあたり、多くの方にご協力を頂きました。

まず、武漢大学信息管理学院への訪問にあたっては、信息管理学院の教授に大変お世話になりました。訪問以前からメールで問い合わせを受けてくださり、実際に訪問した際には武漢大学信息管理学院における2013年度の改革を説明していただき、訪問後も電話とメールで情報を確認してくださりました。また、インタビュー調査にご協力してくださった教授と学生の方々にもお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

また、武漢大学信息管理学院出身、同じゼミの後輩の馮昱婷から武漢大学信息管理学院の教授を紹介してくれ、本当にありがとうございました。

本研究を進めるにあたり、同じゼミの先輩、同期と後輩からも協力を頂きました。

貴重な時間を割いて意見をくださり、日本語を直してくださったチューターに本当に感謝します。

更に、ご指導・ご助言をいただきました溝上先生にも大変感謝しております。

最後に、指導教官であります呑海先生には、研究生時期から、最後までご迷惑をかけてしまいました。それでも、毎回ゼミでのご指導に限らず、別途時間を取っていただき相談させて頂くこともありました。ここに書ききれないほど感謝しております。

誠にありがとうございました。

参考文献

<日本語文献>

1. 有本章編. 大学のカリキュラム改革. 玉川大学出版部, 2003, 339p., (高等教育シリーズ 122) .
2. 袁振国. 中国教育改革の構想：これからの 10 年. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして(2011), 中間報告書(2010 年度). 2011, p. 135-161.
3. 大塚豊. “現代中国高等教育の成立”. 玉川大学出版社. 1996, p. 165-233.
4. 科学技術振興機構中国総合研究センター. 中国の高等教育の現状と動向. 平成 22 年版, 2010, 192p.
5. 神崎明坤. 中国の大学のカリキュラム改革に関する考察：教養教育を中心として. 西南女学院大学紀要. 2017, vol. 21, p. 181-190.
6. 栗原理. 中国における高等教育の伸張について. 現代社会学. 2010, vol. 11, p. 67 - 73.
7. 海外学術動向ポータルサイト. 「3つの部門・委員会責任者が世界一流大学・一流学科建设リストを解説」. 日本学術振興会. 2017.
8. 顧銘. 1980 年以降の中国における図書館情報学教育の改革-北京大学と華東師範大学のカリキュラム分析を通して-. 日本図書館情報学会誌. 2002, vol. 48, no. 1, p. 34-47.
9. 黄福涛. “大学のカリキュラム改革”. 1990 年代以降の中国高等教育の改革と課題. RIHE. 2005, vol. 81, p. 99-109.
10. 黄福涛. “中国における高等教育の質的保証：「本科教学評価」を中心に”. 高等教育の質的保証に関する国際比較研究. 広島大学高等教育研究開発センター編. 2005, p. 41-49.
11. 黄福涛. 大学カリキュラムに関する研究：回顧と展望. 広島大学高等教育研究開発センター大学論集. 2014, no. 46, p. 17-29.
12. 黄福涛. “世界一流大学の構築：政策・効果・課題”. 中国における高等教育の変貌と動向：2005 年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 1-12.
13. 宮玉婷. “中国における大学入学試験制度改革の現状と課題：「自主学生募集」に焦点をあてて”. 教育制度研究紀要. 筑波大学教育制度研究室. 2012, no. 7, p. 75-80.
14. 小林文男. 中国の教育改革と入試体制：文化大革命下の高等教育の現状. 教育学研究. 1975, vol. 42, no. 4, p. 292-297.
15. 吳建中ほか. 21 世紀の図書館：世界のなかの中国の図書館. 初版, 京都大学図書館情報学研究会. 2007, 251p.
16. 吳建中ほか. 21 世紀の図書館を考える：中国・日本・アメリカ. 京都大学図書館学研究会, 2001, 252p.
17. 吳建中ほか. 中国の図書館と図書館学：歴史と現在. 初版, 京都大学図書館学研究

- 会, 2009, 177p.
18. 佐々木敏雄編. 中国図書館情報学用語辞典. 初版, 明石書店, 2002, 663p.
 19. 史媛媛. “大学カリキュラム改革: 「通識教育」カリキュラム改革を中心に”. 中国における高等教育の変貌と動向: 2005年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 53-68.
 20. 史媛媛. “中国における重点大学の先導的事例にみる教養教育改革に関する研究”. 九州大学学術情報リポジトリ, 2015, 196, 博士論文.
 21. 人民網日本語版. 「国務院、世界一流大学・一流学科建設を目指す「全体案」発表」. <http://j.people.com.cn/n/2015/1106/c94475-8972738.html>.
 22. 謝妍笑. “大学入試改革”. 中国における高等教育の変貌と動向: 2005年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 45-52.
 23. 中国の科学技術の今を伝えるのウェブサイト. 「胡錦濤の科学的発展観とはいったい何なのか」. <http://www.spc.jst.go.jp/experiences/beijing/b080121.html>.
 24. 中国の科学技術の今を伝えるのウェブサイト. 「211プロジェクト」. http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_2/2_1/2_1_1.html.
 25. 中国の科学技術の今を伝えるのウェブサイト. 「985プロジェクト」. http://www.spc.jst.go.jp/education/education/education_05.html.
 26. 張幾. 中国の図書館の発展過程の歴史的考察. 情報学. 2011, vol. 8, no. 1, p. 69-74.
 27. 張健. 略談高等学校学習蘇連先進経験的成就和問題. 人民教育. 1956a, vol. 2, p. 12-15.
 28. 陳伝夫, 吳鋼, 盛釗, 丁寧, 張法; 梁桂熟 (訳). 新中国図書館情報学教育の歩みと展望. 図書館界. 2012, vol. 63, no. 6, p. 452-462. (新中国図書館の60年5シリーズ).
 29. 丁健. 近代中国における図書館人材養成機関の設立: 武昌文華図書館学専科学校を中心に. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 2012, vol. 52, p. 267-273.
 30. 鄧新培, 小島麗逸. 中国教育の発展と矛盾. 御茶ノ水書房. 2002, 313p.
 31. 独立行政法人大学評価・学位授与機構編. “中国高等教育質保証インフォメーション・パッケージ: 中国の高等教育における質保証システムの概要”, 2013, 38p.
 32. 南部広孝. “中国の大学入学者選抜における推薦入学制度の変遷”. 大学論集. 広島大学高等教育研究開発センター編. 2005, p. 167-182.
 33. 南部広孝. “中国における高等教育の質保証と学習成果アセスメント”. 学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究 (研究成果報告書). 深堀聰子, 2010, p. 17-34.
 34. 日本カリキュラム学会編. 現代カリキュラム事典. ぎょうせい, 2001, 522p.
 35. 日本の展望委員会知の創造分科会編. 21世紀の教養と教養教育. 日本学術会議/日本の展望委員会/知の創造分科会. 2010, 26p.
 36. 日本図書館情報学会, 用語辞典編集委員会編. 図書館情報学用語辞典. 第4版, 明丸善出

- 版株式会社, 2014, 284p.
37. 羽田貴史編. グローバル社会における高度教養教育を求めて. 東北大学出版会, 2018, 375p. 2013.
 38. 寶心浩. “中国の大学入試改革”. IDE 現代の高等教育. 佐々木毅, 2018, vol. 6, no. 601, p. 35-39.
 39. 溝上智恵子, 冷静. “中国の大学における学習支援”. 世界のラーニング・コモンズ-大学教育と「学び」の空間モデル. 溝上智恵子, 樹村房, 2015, p. 183-207.
 40. 楊嵐. 中国の高等教育改革における教養教育の変容: 市場化への対応に焦点を当てて. 教育学論集第2集. 2006, p. 123-143.
 41. 楊瞳. 中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム:3 大学の事例比較. 大学経営政策研究. 2013, no. 3, p. 117-138.
 42. 横松良介. 中国の学校教育制度と大学入試制度改革. 北京研究連絡センター, 2016, 19p.
 43. 吉岡知哉. 大学にとって政策とは何か. IDE 現代の高等教育. 2018, vol. 1, no. 597, p. 16-21.
 44. 李常慶. “中国における図書館情報学教育の変遷および展望”. 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究. 東京, 2004-12-18. 文部省科学研究費基盤研究, p. 175-193.
 45. 李常慶. “中国の図書館情報学の最近の動向”. 図書館情報学のアイデンティティ (論集・図書館情報学研究の歩み 第18集). 日本図書館情報学会研究委員会編, 東京, 日外アソシエーツ, 1998, p. 175-186.
 46. 林師敏. “中国における高等教育の質保証: 「本科教育工作評価」を中心に”. 中国における高等教育の変貌と動向: 2005年以降の動きを中心に. 李敏, 黄福涛. 広島大学高等教育研究開発センター, 2016, p. 101-113.
 47. 冷静. 中国における大学図書館の学習支援について: 北京大学図書館を事例として. 筑波大学, 2014, 81, 修士論文.

<中国語文献>

1. 陳伝夫, 吳鋼, 唐琼, 孫凱, 于媛. 改革開放三十年我国図書館情報学教育的發展. 図書館情報知識. 2008, no. 125, p. 5-14.
2. 杜穗. 図書館与高校素質教育. 図書館論壇. 2006, vol. 26, no. 1, p. 202-203.
3. 董小英. “国図書館学情報学教育的伝型及其問題”. 中国図書館学報. Vol. 22, No. 101, 1996, p. 28-29.
4. 范興坤. 1997年以来我国高校図書館事業政策發展階段性特征述評 (上). 大学図書館学報. 2011, p. 16-20.

5. 范興坤. 1997 年以来我国高校圖書館事業政策發展階段性特征述評 (下). 大学圖書館學報. 2011, p. 27-30.
6. 黃宗忠, “武漢大學圖書館學系六十年: 兼評文華圖專和韋棣華在我國圖書館事業史上的作用”, 武漢大學學報 (哲學社會科學版). No. 6, 1980, p. 78-85.
7. 金敏甫, “中國現代圖書館教育述略”, 武昌文華圖書科季刊. Vol. 2, No. 4, 1930, p. 1-3.
8. 勞凱聲. “高等教育改革與高等學校的法律地位”. 中國高等教育研究 50 年 1949—1999. 陳向明編. 教育科學出版社, 1999, p. 587—590.
9. 劉智運. 建立開放式的高校教學體系. 高等教育研究. 1985, vol. 2, p. 33—38.
10. 馬叙倫. 五年來新中國的高等教育. 人民教育. 1954, vol. 1, p. 31—32.
11. 蘇渭昌. “五十年代的院系調整”. 中國高等教育研究 50 年 1949—1999. 陳向明編. 教育科學出版社, 1999, p. 1863—1868.
12. 王知津, 徐芳, 潘永超, 王秀香, 劉念. 我國圖書情報學教育三十年 (1978~2008) 回顧與展望. 圖書與情報. 2010, no. 2, p. 23-30.
13. 文華圖書科季刊. 文華圖書科. 1931, vol. 3, no. 3, 361p.
14. 吳丹, 余文. 近五年國內外圖書情報學教育研究進展與趨勢. 圖書館情報知識. 2015, no. 165, p. 4-15.
15. 吳慰慈, “新中國圖書館事業建設的主要成就: 紀念建國三十五周年圖書館專輯 (二)”, 圖書館學通訊. No. 1, 1985, p. 3-11.
16. 吳慰慈, “中國圖書館學情報學教育的改革與發展”, 中日圖書情報學研究進展. 北京大學信息管理系, (日) 筑波大學圖書館情報學系. 中文版, 北京圖書館出版社, 2005, p. 1-19.
17. 武漢大學信息管理學院編. 求實奮進共譜新篇: 從文華圖專到武漢大學信息管理學院 (1920~2010). 第一版, 武漢大學出版社, 2010, 485p.
18. 武漢大學信息管理學院における 2012 年度の圖書館學專攻教育計畫表.
19. 武漢大學信息管理學院における 2013 年度の圖書館學專攻教育計畫表.
20. 武漢大學公文書, 2016, no. 107, p. 1-28.
21. 武漢大學のウェブサイト. 「大學概観」 <http://www.whu.edu.cn/xxgk/xxjj.htm>.
22. 武漢大學信息管理學院のウェブサイト. 「院系設置」 <http://www.whu.edu.cn/jgsz/yxsx.htm>.
23. 武漢大學信息管理學院のウェブサイト. 「圖書館學系」
<http://sim.whu.edu.cn/xy/jgsz/1/2016-05-06/472.html>.
24. 武漢大學信息管理學院のウェブサイト. 「學院概況」<http://sim.whu.edu.cn/xy/xygk/>.
25. 肖安東, 漆玲玲, 王贊. 武漢大學通識選課課程的改革與發展. 中國論文ウェブサイト科技論文, 2015.
26. 肖東發. “中國圖書館學教育”. 圖書館學刊. 1988, p. 7-12.
27. 肖希明. 中國百年圖書館學教育與社會的互動發展. 中國圖書館學報. 2017, vol. 43, no. 229, p. 5-15.

28. 肖希明, 司莉, 黄如花. “我国图书馆学教育發展現狀的調查分析”. 图书馆情报知识. 2008, p. 5-10, 16.
29. 武汉大学公文書, 2016, no. 107, p. 1-28.
30. 熊明安. “我国高等学校幾次重大調整的回顧与評価”. 中国高等教育研究 50 年 1949—1999. 陳向明編. 教育科学出版社, 1999, p. 1869—1873.
31. 嚴琳, 王繼武, 易同民. 文革時期的陝西高等教育和学校校報. 今传媒. 2012, vol. 1, p. 114—115.
32. 嚴文郁. “韋棣華女士與庚子賠款”. 伝記文学. 1971, vol. 18, no. 5, p. 13-15.
33. 楊東平. “艱難の日出：中国現代教育的 20 世紀”. 文滙出版社. 2003, p. 1-113.
34. 張白影. 当代中国高等学校图书馆事業述評. 高校图书馆工作. 1997, vol. 1, p. 1—5.
35. 張白影. 当代中国高等学校图书馆事業述評 (続). 高校图书馆工作. 1997, vol. 3, p. 28—34.
36. 張白影, 荀昌榮, 潘繼武. 中国图书馆事業 10 年. 湖南大学出版社, 1989, 966p.
37. 中国高等教育学会編. “改革開放 30 年中国高等教育發展經驗專題研究 1978~2008. 教育科学出版社. 2008, p. 65-67.
38. 中国大百科全書. “图书馆学情报学档案学”, 中国大百科全書·图书馆学情报学档案学, 北京, 中国大百科全書出版社, 1993, 679 p.
39. 中国教育部「2009 年普通高等教育機關学生募集規定」
http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_297/201001/79905.html.
40. 中国国家文物事業局編. 图书馆工作滙報綱要. 1980.
41. 中国政府的ウェブサイト. 「普通高等学校本科專業目錄新旧專業对照表」
http://www.gov.cn/fwxx/wy/2012-10/12/content_2242157.htm.
42. 中国图书馆学会. 中国图书馆学学科史. 中国科学技术協會編. 中国科学技术出版社, 2014, 304p., (中国科学史研究報告系列).
43. 中国图书馆学会, 国家图书馆. “按年份全国公共图书馆主要業務活動情況”. 中国图书馆年鑑 2016. 国家图书馆出版社, 2017.
44. 中華人民共和国国家統計局編. 中国年鑑 2011.
45. 中華人民共和国国家統計局編. 中国年鑑 2014.
46. 中華人民共和国教育部的ウェブサイト. 「中共中央关于教育体制改革的決定」.
http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/moe_177/tnull_2482.html.
47. 中華人民共和国教育部的ウェブサイト. 「面向 21 世紀教育振興行動計畫」.
http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2487.html
48. 中華人民共和国教育部的ウェブサイト. 「中国高等教育改革發展綱要」
http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2484

.html.

<英語文献>

1. Ke Ping, Wang Ping, Tang Chengxiu. Graduate education of library science in China: Current status and recommendations for improvement. Chinese Journal of Library and Information Science. 2008, Vol. 1, No. 3/4, p. 73-85.
2. Qi Yanli. The Library And Information Education In China. 情報理論与实践. 1992, vol, 5, p. 47-52.
3. Qiu Junping, Ni Chaoqun, Meng Yuan. A comparative study of library and information science education at library and information science institutions of higher learning in contemporary China' s Mainland and Taiwan. Chinese Journal of Library and Information Science. 2009, Vol. 2 No. 1, p. 89-104.
4. Xiao Ximing, Wu Gang, Li Zhuozhuo. Library science education and the competitiveness of its graduates: A survey and an analysis of Chinese library directors' perceptions. Chinese Journal of Library and Information Science. 2008, Vol. 1, No. 3/4, p. 59-72.
5. Yan Jinwei, Zheng Lan, Song Xue, Zhang Yan, Song Jiao, Dai Longji, LI Dejuan. Development and construction of China' s higher education libraries. Chinese Journal of Library and Information Science. 2008, Vol. 1 No. 2, p. 31-51.

付録

大学本科専攻学科目録（2012年）

番号	名称
01	学問分野：哲学
02	学問分野：経済学
03	学問分野：法学
04	学問分野：教育学
05	学問分野：文学
06	学問分野：歴史学
07	学問分野：理学
08	学問分野：工学
09	学問分野：農学
10	学問分野：医学
12	学問分野：管理学
1201	専攻の種類：管理科学と工程
120101	専攻：管理科学
120102	専攻：情報管理と情報システム
120103	専攻：工程管理（注：可授管理学或工学学士学位）
120104	専攻：不動産開発と管理
120105	専攻：工程造价
1202	専攻の種類：工商管理
120201K	専攻：工商管理
120202	専攻：マーケティング
120203K	専攻：財務
120204	専攻：財務管理
120205	専攻：国際ビジネス
120206	専攻：人材資源管理
120207	専攻：審計学

120208	専攻：資産管理
120209	専攻：プロパティ管理
120210	専攻：文化産業管理
1203	専攻の種類：農業経済管理
120301	専攻：農林経済管理
120302	専攻：農村区域発展
1204	専攻：公共管理
120401	専攻：公共事業管理
120402	専攻：行政管理
120403	専攻：労働社会保障
120404	専攻：土地資源管理
120405	専攻：城市管理
1205	専攻の種類：図書情報とアーカイブズ管理
120501	専攻：図書館学
120502	専攻：アーカイブズ管理学
120503	専攻：アーカイブズ管理情報資源管理
1206	専攻種類：物流管理と工程
120601	専攻：物流管理
120602	専攻：物流工程
1207	専攻の種類：工業工程
120701	専攻：工業工程
1208	専攻の種類：電子ビジネス
120801	専攻：電子ビジネス
1209	専攻の種類：旅游管理
120901K	専攻：旅游管理
120902	専攻：ホテル管理
120903	専攻：コンベンション経済と管理
13	専門分野：芸術学

注 「大学本科専攻学科目録：新旧専攻学科対照表（2012年9月）」により作成。